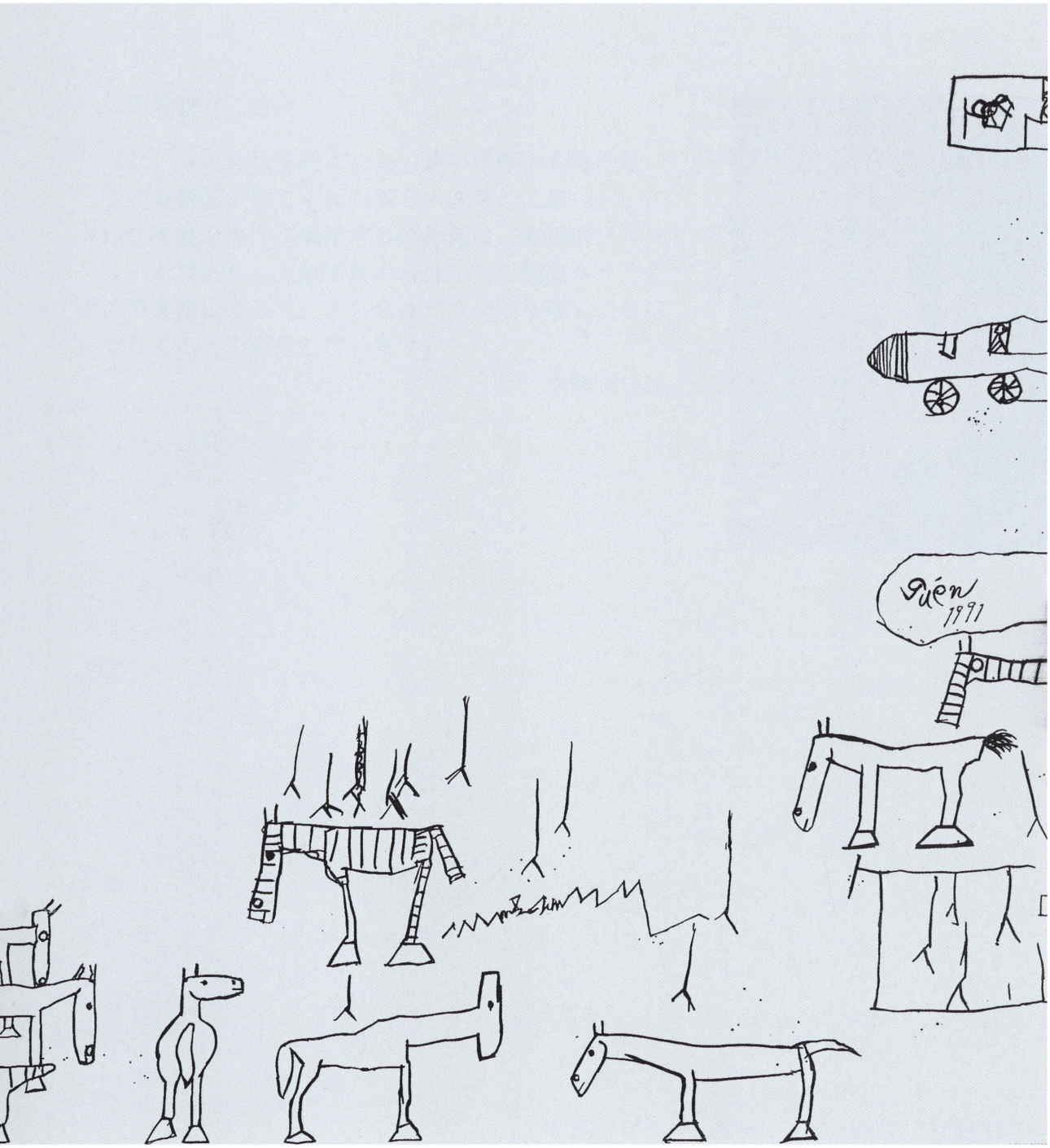
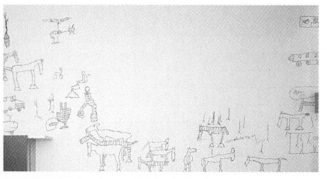
# 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館
# 年報2003-2004




Marugame Inokuma Genichiro Museum Of Contemporary Art

MIMOCA

表紙　壁画『創造の広場』1991年　猪熊弦一郎　　撮影　フォトス　高橋 章



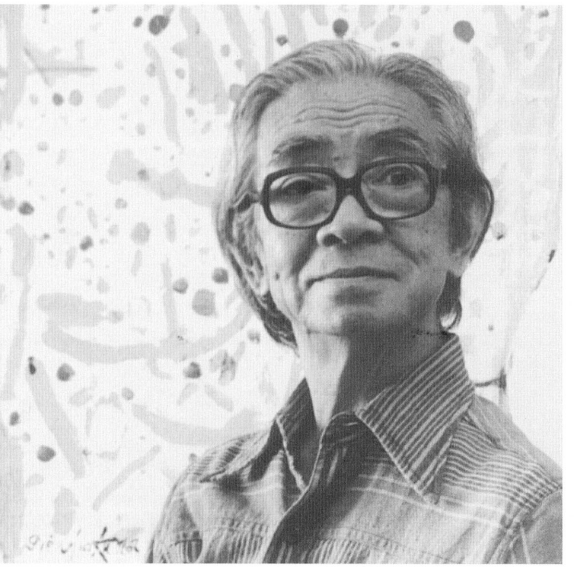
縦　1150cm
横　2157cm
材質　大理石（ギリシア産）
　　御影石（岐阜・美濃産）

『壁画の主題になっている馬は、人間をはじめとする生き物の代表として描いたものです。壁画のあるゲートプラザには、壁画のほかに彫刻類もあり、この広場に立ったとき、空間の広さと美しさを感じ、それぞれの人に新たな創造の意欲がわき出るような広場にしたかったのです』　猪熊弦一郎

美術館設立に寄せて

『私が少年時代を過ごした、想い出深い丸亀の地にこの美術館が建てられた事を大変嬉しく思います。現代美術を専門に展示する美術館は、全国的にもユニークであり、丸亀市民の皆様の力で建設されたこの美術館によって、まち全体が文化的な環境になって行くことを期待しています』

猪熊弦一郎



©Francis Haar

凡例

作品リストは自主企画にのみ掲載した。自主企画のうち図録を刊行したものについては図録内の作品リストを準処とした。猪熊弦一郎の作品の所蔵者は、特に記していない場合は当館である。

# 目次


Ⅰ　沿革……1
Ⅱ　展覧会事業
　　ⅰ　展覧会一覧（2003－2004）……2
　　ⅱ　企画展
　　2003年度　73　草間彌生展　Labyrinth－迷宮の彼方に……3
　　74　イン／プリント－ブリティッシュ・アートの新たなヴィジョン－……4
　　75　生誕100周年記念　猪熊弦一郎回顧展……6
　　76　国立美術館巡回展　受容と発展：花ひらく近代洋画……10
　　77　マリーナ・アブラモヴィッチ　－The Star－……13
　　2004年度　78　猪熊弦一郎展　ニューヨークからの発信……15
　　79　やなぎみわ〔少女地獄極楽老女〕……17
　　80　猪熊弦一郎展　遊泳する形……19
　　81　ジャパニーズ・モダン－剣持勇とその世界……21
　　82　猪熊弦一郎展　人物像にみる表現……23
　　83　風景遊歩　sight-cruising……25
Ⅲ　美術作品整理、管理
　　ⅰ　貸出し……28
Ⅳ　教育普及事業
　　ⅰ　ワークショップ……31
　　ⅱ　オープンスタジオ「美術館であそぼう」……35
　　ⅲ　コンサート・文化講演会……36
　　ⅳ　刊行物一覧……39
　　ⅴ　美術図書室利用状況……42
　　ⅵ　ミモカフレンド……43
　　ⅶ　キッズパスポート……45
　　ⅷ　市内教職員対象解説会……46
Ⅴ　その他事業
　　ⅰ　ミュージアムショップ……47
　　ⅱ　カフェ……49
Ⅵ　入館者状況……50
Ⅶ　組織図……51
Ⅷ　施設概要……53
Ⅸ　利用案内……54

# I 沿革

1987年(昭和62年)10月　丸亀市が市制90周年事業として猪熊弦一郎美術館の建設を発表
1988年(昭和63年) 1 月　美術館建設懇談会設置
7 月　美術館建設懇談会、市長に意見書提出
8 月　美術館建設基本構想策定
9 月　美術館基本設計委託
9 月　丸亀駅前地下駐車場建設工事着工
11月　美術館準備室設置
1989年(平成元年) 2 月　美術館基本設計完了
3 月　美術館実施設計委託
5 月　美術館基本設計変更案決定
9 月　美術館実施設計完了
11月　美術館建設工事着工
12月　美術館建設工事起工式
12月　猪熊弦一郎から丸亀市へ《夜》《猫に寄せる歌》
《Two Shores A》等、第一回分として作品1000点を寄贈
1990年(平成 2 年) 3 月　丸亀駅地下駐車場建設工事竣工
1991年(平成 3 年) 3 月　ＪＲ丸亀駅南口広場の整備工事完成
3 月　定礎式と壁画「創造の広場」除幕式
3 月　猪熊弦一郎に名誉市民証授与される（丸亀市第１号）
6 月　美術館建設工事竣工
9 月　丸亀市美術館条例制定
10月　美術館の愛称が「ＭＩＭＯＣＡ」に決定
11月　落成式
11月　一般公開（23日）
1992年(平成 4 年) 3 月　入館者５万人達成（28日）
5 月　猪熊弦一郎から丸亀市長とのかねてからの約束に
基づき所有する作品等を市に寄贈する主旨の文書提出
10月　入館者10万人達成（９日）
12月　第26回サイン・デザイン賞受賞
1993年(平成 5 年) 4 月　財団法人ミモカ美術振興財団設立
5 月　猪熊弦一郎、東京にて死去（17日、満90歳）
9 月　第34回建築業協会賞受賞
1994年(平成 6 年) 5 月　第７回村野藤吾賞受賞
8 月　入館者30万人達成（４日）
1995年(平成 7 年) 4 月　ミモカフレンド発足
1996年(平成 8 年) 4 月　第５回公共建築賞（主催：社団法人・公共建築協会)、特別賞受賞（３日）
5 月　休館日改定（月曜日休館を廃止し、元旦より開館へ）
料金体系改定（大学生料金を一般料金と分離し、高校生以下無料に）
開館時間変更（午前10時から午後６時まで）
5 月　入館者50万人突破（15日）
9 月　ホームページ開設（５日）
1997年(平成 9 年) 7 月　美術館南北の市道の愛称を「美術館通り」、「いのくま通り」と設定
1998年(平成10年)11月　建設省設立50周年記念「公共建築百選」に選出
2000年(平成12年) 9 月　入館者100万人突破（26日）
2001年(平成13年)11月　香川県教育文化功労者受賞（１日）
2001年(平成13年)11月　開館10周年を迎える
2003年(平成15年)11月　生誕100周年記念猪熊弦一郎回顧展が開催される。(23日)

# Ⅱ 展覧会事業

## i 展覧会一覧 (2003—2004)

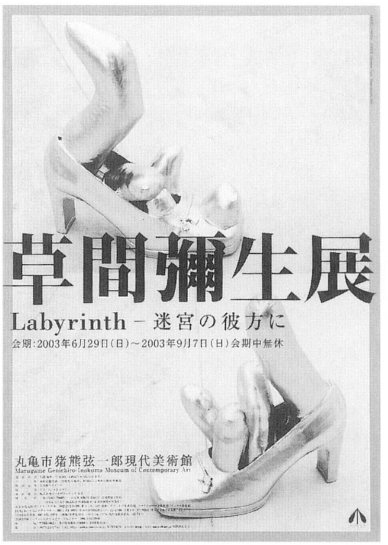
| | No | 展覧会名 | 会期 |
|---|---|---|---|
| | 72 | ヴォルフガング・ライプ展　Ourchgang-Übergang | (年報2001－2002参照) |
| 2003（平成15年度） | 73 | 草間彌生展　Labyrinth－迷宮の彼方に | 2003年６月29日～2003年９月７日 |
| | 74 | イン／プリント　－ブリティッシュ・アートの新たなヴィジョン－ | 2003年９月13日～2003年11月16日 |
| | 75 | 生誕100周年記念　猪熊弦一郎回顧展 | 2003年11月23日～2004年２月８日 |
| | 76 | 国立美術館巡回展　受容と発展：花ひらく近代洋画 | 2004年２月14日～2004年３月14日 |
| | 77 | マリーナ・アブラモヴィッチ　－The Star－ | 2004年３月20日～2004年５月30日 |
| 2004（平成16年度） | 78 | 猪熊弦一郎展　ニューヨークからの発信 | 2004年６月６日～2004年７月19日 |
| | 79 | やなぎみわ〔少女地獄極楽老女〕 | 2004年７月25日～2004年９月12日 |
| | 80 | 猪熊弦一郎展　遊泳する形 | 2004年９月18日～2004年11月３日 |
| | 81 | ジャパニーズ・モダン－剣持勇とその世界 | 2004年11月13日～2005年１月16日 |
| | 82 | 猪熊弦一郎展　人物像にみる表現 | 2005年１月22日～2005年３月６日 |
| | 83 | 風景遊歩　sight－cruising | 2005年３月13日～2005年６月12日 |

# Ⅱ 展覧会事業

## ii 企画展

## 73 草間彌生展 Labyrinth－迷宮の彼方に

**会　　期**　2003年６月29日(日)～９月７日(日)
**主　　催**　丸亀市猪熊弦一郎現代美術館、財団法人ミモカ美術振興財団
**特別協力**　草間彌生スタジオ
**協　　力**　モマ・コンテンポラリー
**企画協力**　株式会社アートプランニング　レイ
**巡 回 先**　2003年９月20日(土)～11月24日(月)　北海道立釧路芸術館




日本国内はもちろん世界各地での展覧会で発表を続け、今や日本を代表するアーティストの一人、草間彌生の関西、中・四国エリアの美術館では初個展を開催した。

ここ数年、日本国内の美術館においても様々な視点による構成での個展開催が続いている草間であるが、本展は渡米前後に制作された日本未公開のドローイング作品68点やシルバーによるソフトスカルプチャー作品の展示により、草間作品を読み解くキーワードである「反復」、「増殖」が体感できる展示構成がなされた。鑑賞者は全120点にわたる草間作品をまるで迷宮のような展示空間内に辿るうちに、草間が本質的に抱える生と死の問題を深く見つめ、肌で感じ取ることのできる展覧会となったようである。

**刊行物**　カタログ
**制作物**　作品リスト　子どもチラシ

関連企画

記念講演会
７月13日(日)　14時～
テ ー マ　「草間彌生の1970年代」
講　　師　関直子(東京都現代美術館学芸員)
会　　場　２階ミュージアムホール
聴講者数　85人

ギャラリートーク(担当学芸員による)
７月27日(日)、８月10日(日)、８月24日(日)
14時～
参加者数　117人（３日間合計）

入場者数 **13,821** 人

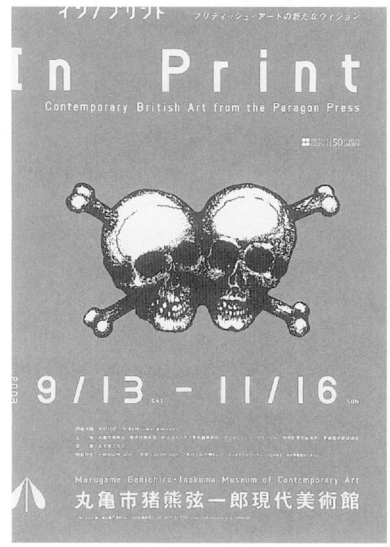
# 74 イン／プリント　―ブリティッシュ・アートの新たなヴィジョン―

**会　　期**　2003年９月13日（土）～11月16日（日）

**主　　催**　丸亀市猪熊弦一郎現代美術館、財団法人ミモカ美術振興財団、ブリティッシュ・カウンシル、読売新聞大阪本社、美術館連絡協議会

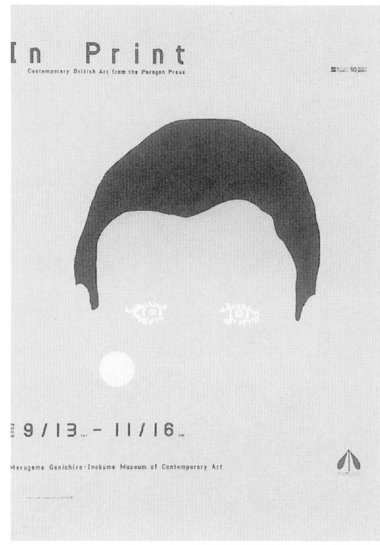
**協　　賛**　花王株式会社

**巡 回 先**　2003年６月10日（火）～７月21日（月）　北海道立函館美術館




1990年代の「ＹＢＡ（ヤング・ブリティッシュ・アーティスト）」台頭以後の、活気に満ちたイギリスのアート・シーンを紹介する本展では、テリー・フロストをはじめとする戦後のブリティッシュ・アートを支えてきたアーティストから、アニッシュ・カプーア、ビル・ウッドロウら「ニュー・ブリティッシュ・スカルプチュア」の作家たち、そしてＹＢＡ世代―すなわちデミアン・ハースト、ギャリー・ヒューム、サム・テイラー＝ウッド、ジェイク＆ディノス・チャップマンらターナー賞（イギリスで最も権威ある美術賞のひとつ）の受賞者や候補となった気鋭のアーティストーまで、名門版画工房パラゴン・プレスと共に制作した現代イギリスを代表するアーティストのプリント作品120点を展観した。

また、より幅広い層に本展を楽しんでいただくために、ミュージアムホールにおいて週末及び祝日についてはほぼすべての日程で関連イベントを開催し、参加者数合計は1000名を超えるものであった。




関連企画

**ギャラリー・トーク（担当学芸員による）**

９月28日（日）、10月12日（日）、11月２日（日）
14時～
参加者数　50人（３日間合計）

**アーティスト・トーク**

９月14日（日）　14時～15時40分
講　　師　ケリス・ウィン・エヴァンズ（本展出品作家）
逐次通訳　尾池博子
会　　場　２階ミュージアムホール
聴講者数　86人

入場者数　**7,945**人

### onedotzero_select dvd 上映会

9月13日(土)、15日(月／祝)、23日(火／祝)、
10月5日(日)、11日(土)、11月1日(土)
14時～15時
協　　力　アスミック･エース　エンタテインメント株式会社
会　　場　2階ミュージアムホール
参加者数　194人(6日間合計)

### LONDON AND BRIGHTON GUIDE-DVD for Creators 上映会

9月14日(日)、10月13日(月／祝)、
11月3日(月／祝)　14時～15時10分
会　　場　2階ミュージアムホール
参加者数　123人(3日間合計)

### ミュージック / アート -UKミュージック･ヴィデオ･ショウ-

9月20日(土)、27日(土)、28日(日)、
10月4日(土)、12日(日)、18日(土)、19日(日)、
26日(日)、
11月2日(日)、8日(土)、9日(日)、16日(日)
10時～18時
協　　力　ソニー･ミュージックジャパンインターナショナル、東芝EMI株式会社、ユニバーサルミュージック、beat ink / beat records、エイベックス･レコード、BMGファンハウス、ワーナーミュージック、森電業、森佳子(敬称略)
参加者数　655人(12日間合計)

# 75 生誕100周年記念 猪熊弦一郎回顧展

**会　　期**　2003年11月23日(日／祝)～2004年２月８日(日)

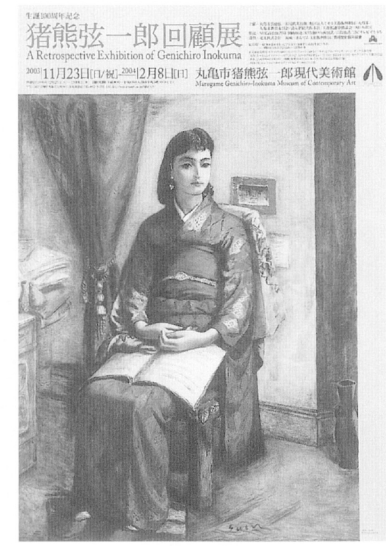
**主　　催**　丸亀市猪熊弦一郎現代美術館、財団法人ミモカ美術振興財団、丸亀市、丸亀市教育委員会、読売新聞大阪本社、美術館連絡協議会、西日本放送

**後　　援**　ＮＨＫ高松放送局、岡山放送、ＫＳＢ瀬戸内海放送、山陽放送、ＴＳＣテレビせとうち

**協　　賛**　花王株式会社

**助　　成**　よんでん文化振興財団、芸術文化振興基金

**巡 回 先**　2004年４月24日(日)～５月23日(日) 茨城県つくば美術館
2004年７月10日(土)～９月５日(日) 川越市立美術館
2004年９月18日(土)～11月14日(日) 群馬県立館林美術館




1902年香川県高松市に生まれた猪熊は東京美術学校に入学した。学生時代から帝国美術院展に入選を果たすなど、若くしてその頭角をあらわす。1936年には、因習的な帝展のあり方に反対の立場をとり、考えを同じくする仲間たちと新制作派協会を創立。新制作派協会は結成当時、その純粋な志と清新な作品によって若きモダニストたちとして注目を集めた。その後の猪熊は日本国内に留まらず、第二次世界大戦開始前後のパリ、20年間に及ぶニューヨーク、晩年のハワイなど世界に活動の場を求め、亡くなる直前まで精力的に創作活動を行った。70余年に渡る長い画歴の間に制作された作品群は、未知なるものに立ち向かった猪熊の挑戦の記録とも言えるであろう。

展覧会では生誕100周年を記念し、初期から晩年までの秀作を一堂に会し、猪熊芸術の全貌を回顧した。

**刊行物**　カタログ
**制作物**　子どもチラシ　子ども用ガイド
作品リスト

関連企画

記念講演会１
11月23日(日／祝) 14時～
テ ー マ　「猪熊弦一郎の世界－人間･都市･動物」
講　　師　木島俊介(美術評論家､群馬県立館林美術館館長)
会　　場　２階ミュージアムホール
聴講者数　111人

入場者数 **10,344** 人

### 記念講演会２

11月24日(月／祝)　14時～
テ　ー　マ　「A Life of Wonder
　　－不思議で素晴らしい人生－」
　　(逐時通訳有)
講　　師　ジョージR.エリス(ホノルル美術館名誉館長)
会　　場　２階ミュージアムホール
聴講者数　84人

### Guen's Birthday

12月14日(日)
概　　要　猪熊弦一郎101回の誕生日を記念して終日観覧無料の他、館内各所でイベントを実施した。
ギャラリートーク
　　10時30分～17時（30分毎開始）
　　参加者数　319人（計14回）
ワークショップ：対話彫刻をつくろう
　　10時30分～18時
　　参加者数　186人
ＤＶＤ上映「少年のように描き続けた画家
　　猪熊弦一郎の世界」
　　11時～17時（１時間毎開始）
　　参加者数　113人（７回）
入場者数　1,675人

### ギャラリー・トーク(担当学芸員による)

11月30日(日)、12月７日(日)、21日(日)、
１月４日(日)、11日(日)、18日(日)、25日(日)、
２月１日(日)、８日(日)　14時～
参加者数　199人(９日間合計)

### ワークショップ

12月13日(土)、20日(土)　10時～12時
テ　ー　マ　「油絵具とアクリル絵具・はじめの一歩」
講　　師　美術館職員
会　　場　２階造形スタジオ
参加者数　20人(12月13日)
　　20人(12月20日)　合計40人

### ワークショップ

１月24日(土)　10時～12時
テ　ー　マ　「荻先生といっしょに描こう」
講　　師　荻　太郎(画家)
会　　場　２階造形スタジオ、館内
参加者数　21人

### ＤＶＤ上映

「少年のように－描き続けた画家
　　猪熊弦一郎の世界」
12月６日(土)、７日(日)、20日(土)
１月３日(土)、４日(日)、10日(土)、11日(日)、
　17日(土)、18日(日)、24日(土)、25日(日)、
　31日(土)
２月１日(日)、７日(土)、８日(日)　15時～
会　　場　２階ミュージアムホール
参加者数　302人(15回)

## 作品リスト

| No. | 作品名 | 制作年 | 技法・材質 | サイズ(縦×横cm) | 所蔵 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 自画像 | 1921 | 油彩・カンヴァス | 53.5× 45.5 | 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館 |
| 2 | 婦人像 | 1926 | 油彩・カンヴァス | 116.8× 91.0 | 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館 |
| 3 | 眠れる女 | 1927 | 油彩・カンヴァス | 116.8× 90.9 | 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館 |
| 4 | 座像 | 1929 | 油彩・カンヴァス | 145.0×112.0 | 香川県文化会館 |
| 5 | 青衣 | 1930 | 油彩・カンヴァス | 71.3× 49.5 | 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館 |
| 6 | 水差しを持てる女 | 1930 | 油彩・カンヴァス | 145.5×112.0 | 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館 |
| 7 | コンポジション | 1930 | 油彩・カンヴァス | 181.7×257.0 | 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館 |
| 8 | パレットを持つ女 | 1931 | 油彩・カンヴァス | 90.8× 65.3 | 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館 |
| 9 | 二人 | 1931 | 油彩・カンヴァス | 160.1×129.2 | 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館 |
| 10 | 画室 | 1932 | 油彩・カンヴァス | 180.3×290.0 | 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館 |
| 11 | 画室 | 1933 | 油彩・カンヴァス | 180.0×275.0 | 東京国立博物館 |
| 12 | 灰色の服 | 1933 | 油彩・カンヴァス | 145.5×112.5 | 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館 |
| 13 | 海と女 | 1935 | 油彩・カンヴァス | 180.1×288.7 | 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館 |
| 14 | 馬と裸婦 | 1936 | 油彩・カンヴァス | 182.3×291.5 | 愛知県美術館 |
| 15 | ニースの女 | 1939 | 油彩・カンヴァス | 92.0× 60.4 | 香川県文化会館 |
| 16 | 鳥と少女 | 1939 | 油彩・カンヴァス | 80.3× 60.6 | 高松市美術館 |
| 17 | S君の像 | 1939 | 油彩・カンヴァス | 81.5× 65.3 | 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館 |
| 18 | 妻と手袋 | 1939 | 油彩・カンヴァス | 80.8× 60.0 | 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館 |
| 19 | ジプシーの子供達 | 1939-40 | 油彩・カンヴァス | 80.3× 60.4 | 高松市美術館 |
| 20 | マドモアゼルM | 1940 | 油彩・カンヴァス | 81.2× 65.4 | 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館 |
| 21 | 赤い上着 | 1940 | 油彩・カンヴァス | 72.7× 60.5 | 香川県文化会館 |
| 22 | 葉をくわえた女 | 1940 | 油彩・カンヴァス | 65.0× 46.0 | 香川県文化会館 |
| 23 | 長江埠の子供達 | 1941 | 油彩・カンヴァス | 130.5×194.0 | 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館 |
| 24 | ダムのある風景 | 1945頃 | 油彩・カンヴァス | 60.5× 72.7 | 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館 |
| 25 | 緑陰 | 1946 | 油彩・カンヴァス | 93.8× 62.5 | 高松市美術館 |
| 26 | 絵を描くN氏 | 1950 | 油彩・カンヴァス | 92.0×117.5 | 香川県文化会館 |
| 27 | 六つの顔 | 1950 | 油彩・カンヴァス | 92.0×117.5 | 香川県文化会館 |
| 28 | バレリーナの夢想 | 1950 | 油彩・カンヴァス | 131.0×162.0 | 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館 |
| 29 | 二人の裸婦 | 1951 | 油彩・カンヴァス | 116.5× 91.0 | 香川県文化会館 |
| 30 | 猫と住む人 | 1952 | 油彩・カンヴァス | 130.8×193.5 | 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館 |
| 31 | 人と猫Ⅰ | 1953 | 油彩・カンヴァス | 79.3× 99.0 | 香川県文化会館 |
| 32 | 月と猫達 | 1953 | 油彩・カンヴァス | 80.0×100.0 | 香川県文化会館 |
| 33 | 馬と道化 | 1955 | 油彩・カンヴァス | 117.0× 91.0 | 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館 |
| 34 | HANIWA 1 | 1956 | 油彩・カンヴァス | 106.4×175.5 | 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館 |
| 35 | Pine Tree 1 | 1956 | 油彩・カンヴァス | 178.0× 91.2 | 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館 |
| 36 | Calm | 1956 | 油彩・カンヴァス | 157.0× 91.5 | 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館 |
| 37 | 星座 | 1958 | 油彩・カンヴァス | 200.5×180.0 | 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館 |
| 38 | 御神楽 | 1961 | 油彩・カンヴァス | 203.2×178.0 | 香川県文化会館 |
| 39 | Greeting of Neighborhood | 1962 | 油彩・カンヴァス | 152.5×127.2 | 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館 |
| 40 | 無重力地帯 | 1962-63 | 油彩・カンヴァス | 203.0×178.0 | 東京国立近代美術館 |

| No. | 作品名 | 制作年 | 技法・材質 | サイズ(縦×横cm) | 所蔵 |
|---|---|---|---|---|---|
| 41 | Confusion and Order | 1964 | 油彩・カンヴァス | 203.0×177.5 | 東京国立近代美術館 |
| 42 | ENTRANCE (A) | 1964 | 油彩・カンヴァス | 198.0×178.0 | 東京国立近代美術館 |
| 43 | ヴォイス (マンハッタン) | 1965 | 油彩・カンヴァス | 213.0×292.0 | 京都国立近代美術館 |
| 44 | CITY PLANNING | 1965 | アクリル・カンヴァス | 200.7×292.3 | 高松市美術館 |
| 45 | マンハッタン A | 1966 | 油彩・カンヴァス | 204.3×153.2 | 愛知県美術館 |
| 46 | The City (Green No.4) | 1968 | アクリル・カンヴァス | 203.0×152.5 | 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館 |
| 47 | City Planning Yellow No.1 | 1968 | アクリル・カンヴァス | 152.0×153.0 | 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館 |
| 48 | 驚く可き風景 (B) | 1969 | 油彩・カンヴァス | 111.8×193.5 | 東京国立近代美術館 |
| 49 | Two Shores B | 1970 | アクリル・カンヴァス | 203.7×178.0 | 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館 |
| 50 | 風景 CX | 1972 | アクリル・カンヴァス | 203.5×179.0 | 京都国立近代美術館 |
| 51 | Landscape BY | 1972 | アクリル・カンヴァス | 203.5×178.8 | 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館 |
| 52 | Rainbow Z | 1976 | アクリル・カンヴァス | 111.0× 96.0 | 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館 |
| 53 | 角と丸 BX | 1977 | アクリル・カンヴァス | 190.0×175.0 | 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館 |
| 54 | ピンク 角 | 1977 | アクリル・カンヴァス | 119.9× 85.0 | 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館 |
| 55 | 飛び行く力 | 1978 | アクリル・カンヴァス | 136.3×122.0 | 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館 |
| 56 | 地図の中の日曜日 | 1979 | アクリル・カンヴァス | 177.0×194.0 | 愛知県美術館 |
| 57 | 絵の中に住む絵 | 1980 | アクリル・カンヴァス | 200.0×250.0 | 香川県文化会館 |
| 58 | 夜を飛ぶ | 1980 | アクリル・カンヴァス | 137.0×122.3 | 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館 |
| 59 | 発芽時代 | 1985 | アクリル・カンヴァス | 90.5×126.0 | 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館 |
| 60 | 体操と水 | 1987 | アクリル・カンヴァス | 136.0×121.0 | 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館 |
| 61 | 二つの門 | 1987 | アクリル・カンヴァス | 152.0×121.0 | 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館 |
| 62 | 顔31 | 1989 | アクリル・カンヴァス | 130.4× 97.2 | 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館 |
| 63 | 顔80 | 1989 | アクリル・カンヴァス | 194.0×194.0 | 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館 |
| 64 | 顔 犬 鳥 | 1991 | アクリル・カンヴァス | 194.0×259.0 | 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館 |
| 65 | 裸子1 顔13 鳥2 | 1991 | アクリル・カンヴァス | 127.5× 96.2 | 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館 |
| 66 | 鳥 犬 顔 隣人 | 1992 | アクリル・カンヴァス | 194.0×130.0 | 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館 |
| 67 | 或晴れた一日 | 1992 | アクリル・カンヴァス | 136.0×122.0 | 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館 |
| 68 | 風車と鳥 | 1993 | アクリル・カンヴァス | 137.0×122.0 | 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館 |
| 69 | 飛ぶ日のよろこび | 1993 | アクリル・カンヴァス | 137.3×122.1 | 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館 |
| 70 | ダボとカガシ | 1993 | アクリル・カンヴァス | 120.8×101.4 | 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館 |
| 71 | 素描1 | 不詳 | 鉛筆・紙 | 28.2× 37.2 | 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館 |
| 72 | 素描2 | 不詳 | 木炭、インク・紙 | 36.4× 29.5 | 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館 |
| 73 | 素描3 | 不詳 | インク・紙 | 38.1× 29.2 | 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館 |
| 74 | 素描4 | 不詳 | 鉛筆・紙 | 37.6× 28.7 | 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館 |
| 75 | 素描5 | 不詳 | 鉛筆・紙 | 27.2× 36.7 | 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館 |
| 76 | 素描6 | 不詳 | 鉛筆・紙 | 31.1× 20.5 | 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館 |
| 77 | 素描7 | 不詳 | 鉛筆・紙 | 30.9× 20.5 | 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館 |
| 78 | 素描8 | 不詳 | 鉛筆・紙 | 31.1× 20.5 | 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館 |
| コレクション | | | | 計20点 | |

No.24の作品名は便宜的につけたものです。

# 76 国立美術館巡回展　受容と発展：花ひらく近代洋画

**会　　期**　2004年２月14日(土)～３月14日(日)

**主　　催**　東京国立近代美術館、丸亀市猪熊弦一郎現代美術館、
財団法人ミモカ美術振興財団、丸亀市教育委員会

**後　　援**　朝日新聞高松支局、産経新聞高松支局、山陽新聞社、四国新聞社、
日本経済新聞社高松支局、毎日新聞高松支局、読売新聞高松総局

東京国立近代美術館、京都国立近代美術館、国立国際美術館、国立西洋美術館が所蔵する、大正、昭和初期に日本人画家によって制作された作品と当時の画家が影響を受けた西洋の作品、47点を通じて、油彩画がどのようにして日本に受容されてきたのか、西洋の影響を受けつつ発展してきた日本近代洋画の展開を概観した。約40年の間に制作された作品を通覧することにより、短い期間のなかで様々な試みがなされた当時の洋画の動きを知ることができるものとした。

なお本展は独立行政法人国立美術館等の所蔵作品を効果的に活用し、地域住民の鑑賞機会の充実及び美術の普及を図り、もって地域文化の振興に資するために行われた事業である。国内４つの国立美術館が所蔵する優れた作品の数々を丸亀の地で公開することによって、地方にいながらにして秀作を鑑賞する貴重な機会となった。

**刊行物**　カタログ
**制作物**　作品リスト

関連企画

**記念講演会**

２月22日(日)　14時～
テ ー マ　日本近代と＜洋画＞
講　　師　中林和雄(東京国立近代美術館美術課長)
会　　場　２階ミュージアムホール
聴講者数　92人

入場者数　**5,588**人

ギャラリートーク（担当学芸員による）

2月15日（日）、21日（土）
3月6日（土）、14日（日）　13時30分～
対　　象　一般
参加者数　120人（4日間合計）

ファミリー・ギャラリートーク（担当学芸員による）

2月28日（土）、3月7日（日）　11時～
対　　象　中学生以下のこどもを含む家族
参加者数　5組14人（2日間合計）

## 作品リスト

| No. | 作　者 | 作　品　名 | 制作年 | 技法・材質 | サイズ（縦×横cm） | 所　　蔵 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| i | 個性の芽生え | | | | | |
| 1 | パブロ・ピカソ | 道化役者と子供 | 1905 | グワッシュ、パステル・厚紙 | 71.0× 52.0 | 国立国際美術館 |
| 2 | 川上涼花 | 鉄路 | 1912 | 油彩・キャンバス | 59.0× 44.0 | 東京国立近代美術館 |
| 3 | パブロ・ピカソ | ポスターのある風景 | 1912 | 油彩・キャンバス | 46.0× 61.0 | 国立国際美術館 |
| 4 | 安井曾太郎 | 少女像 | 1912 | 油彩・キャンバス | 55.3× 46.5 | 京都国立近代美術館 |
| 5 | 梅原龍三郎 | 黄金の首飾り | 1913 | 油彩・キャンバス | 47.4× 45.3 | 東京国立近代美術館 |
| 6 | 森田恒友 | フランス風景 | 1914-15 | 油彩・キャンバス | 37.5× 45.5 | 東京国立近代美術館 |
| 7 | 岸田劉生 | 道路と土手と塀（切通之写生） | 1915 | 油彩・キャンバス | 56.0× 53.0 | 東京国立近代美術館 |
| 8 | 藤島武二 | 匂い | 1915 | 油彩・キャンバス | 69.5× 76.0 | 東京国立近代美術館 |
| 9 | 萬鉄五郎 | もたれて立つ人 | 1917 | 油彩・キャンバス | 162.5×112.5 | 東京国立近代美術館 |
| 10 | 関根正二 | 婦人像 | 1918頃 | 油彩・キャンバス | 60.4× 40.4 | 東京国立近代美術館 |
| 11 | ピエール＝オーギュスト・ルノワール | ばらをつけた女 | 1910年代頃 | 油彩・キャンバス | 52.4× 46.4 | 国立西洋美術館 |

| No. | 作　者 | 作　品　名 | 制作年 | 技法・材質 | サイズ(縦×横cm) | 所　　蔵 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| ii | 美術の実験 | | | | | |
| 12 | 中川紀元 | 風景 | 1920 | 油彩・キャンバス | 114.3× 78.5 | 京都国立近代美術館 |
| 13 | 神原泰 | スクリアビンの「エクスタシーの詩」に題す | 1922 | 油彩・布 | 114.6× 89.6 | 東京国立近代美術館 |
| 14 | 村山知義 | あるユダヤ人の少女像 | 1922 | 油彩、紙、木、コラージュ | 40.0× 27.0 | 東京国立近代美術館 |
| 15 | 岡本唐貴 | 制作 | 1924 | 油彩、デトランプ・綿布 | 106.0× 72.3 | 東京国立近代美術館 |
| 16 | 住谷磐根 | 作品 | 1924 | 油彩・キャンバス | 80.7× 65.3 | 東京国立近代美術館 |
| 17 | パウル・クレー | 花ひらく木をめぐる抽象 | 1925 | 油彩・厚紙 | 39.3× 39.1 | 東京国立近代美術館 |
| 18 | 古賀春江 | 月花 | 1926 | 油彩・キャンバス | 91.0×117.0 | 東京国立近代美術館 |
| 19 | マックス・エルンスト | 灰色の森 | 1927 | 油彩・キャンバス | 80.0×100.0 | 国立国際美術館 |
| 20 | ヴァシリー・カンディンスキー | 絵の中の絵 | 1929 | 油彩・カードボード | 70.0× 49.0 | 国立国際美術館 |
| 21 | 福沢一郎 | Poisson d'Avril(四月馬鹿) | 1930 | 油彩・キャンバス | 80.3×116.5 | 東京国立近代美術館 |
| iii | 洋画の成熟 | | | | | |
| 22 | 小出楢重 | 卓上静物 | 1928 | 油彩・キャンバス | 59.0× 71.5 | 京都国立近代美術館 |
| 23 | 児島善三郎 | 鏡を持つ女 | 1928 | 油彩・キャンバス | 162.5×114.0 | 東京国立近代美術館 |
| 24 | 前田寛治 | 裸体 | 1928 | 油彩・キャンバス | 129.0×192.5 | 東京国立近代美術館 |
| 25 | 里見勝蔵 | 女 | 1928頃 | 油彩・キャンバス | 92.0× 65.2 | 京都国立近代美術館 |
| 26 | 児島善三郎 | 無衣の女 | 1932 | 油彩・キャンバス | 116.5× 91.0 | 東京国立近代美術館 |
| 27 | 安井曾太郎 | 金蓉 | 1934 | 油彩・キャンバス | 96.5× 74.5 | 東京国立近代美術館 |
| 28 | 藤島武二 | 港の朝陽 | 1935 | 油彩・キャンバス | 44.5× 59.5 | 東京国立近代美術館 |
| 29 | 須田国太郎 | 歩む鷲 | 1940 | 油彩・キャンバス | 131.0×162.5 | 東京国立近代美術館 |
| 30 | 梅原龍三郎 | 北京秋天 | 1942 | 油彩、岩絵具・紙 | 88.5× 72.5 | 東京国立近代美術館 |
| iv | 日本の外と内 | | | | | |
| 31 | 国吉康雄 | 乳しぼりの女 | 1923 | 油彩・キャンバス | 51.0× 61.0 | 国立国際美術館 |
| 32 | ジュール・パスキン | バラ色の下着の少女<br>(青いブレスレットの少女) | 1924-25 | 油彩・キャンバス | 65.0× 81.0 | 国立国際美術館 |
| 33 | 佐伯祐三 | ガス灯と広告 | 1927 | 油彩・キャンバス | 65.0×100.0 | 東京国立近代美術館 |
| 34 | 藤田嗣治 | メキシコに於けるマドレーヌ | 1934 | 油彩・キャンバス | 91.0× 72.5 | 京都国立近代美術館 |
| 35 | 野田英夫 | 帰路 | 1935 | 油彩・キャンバス | 97.0×146.0 | 東京国立近代美術館 |
| 36 | 北川民次 | ランチェロの唄 | 1938 | テンペラ・紙 | 161.5×130.0 | 東京国立近代美術館 |
| v | 時代と美術 | | | | | |
| 37 | 山口長男 | 二人像 | 1930 | 油彩・キャンバス | 73.0× 60.0 | 東京国立近代美術館 |
| 38 | 川口軌外 | スヴニール | 1932 | 油彩・キャンバス | 116.5× 80.4 | 京都国立近代美術館 |
| 39 | 津田青楓 | 犠牲者 | 1933 | 油彩・キャンバス | 193.0× 95.4 | 東京国立近代美術館 |
| 40 | 靉光 | 馬 | 1936 | 油彩・キャンバス | 96.0×141.0 | 東京国立近代美術館 |
| 41 | 吉原治良 | 作品 | 1936 | 油彩・キャンバス | 91.0×117.0 | 京都国立近代美術館 |
| 42 | 伊藤久三郎 | 雨或いは感傷 | 1937 | 油彩・キャンバス | 130.3×162.1 | 京都国立近代美術館 |
| 43 | 北脇昇 | 独活 | 1937 | 油彩・キャンバス | 117.0× 74.0 | 東京国立近代美術館 |
| 44 | 村井正誠 | URBAIN | 1937 | 油彩・キャンバス | 72.5×233.5 | 東京国立近代美術館 |
| 45 | 長谷川利行 | 新宿風景 | 1937頃 | 油彩・キャンバス | 46.0× 53.0 | 東京国立近代美術館 |
| 46 | 小野里利信 | 黒白の丸 | 1940 | 油彩・キャンバス | 116.0× 89.3 | 東京国立近代美術館 |
| 47 | 松本竣介 | Y市の橋 | 1943 | 油彩・キャンバス | 61.0× 73.0 | 東京国立近代美術館 |

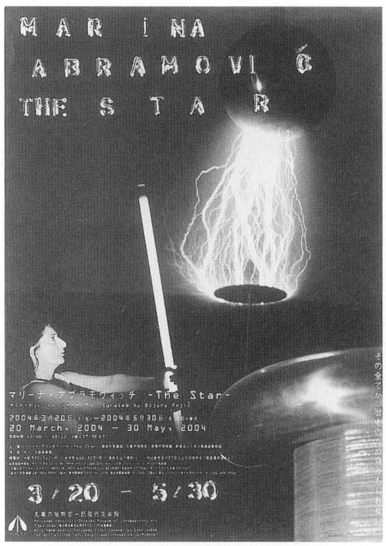
# 77 マリーナ・アブラモヴィッチ —The Star—

**会　　期**　2004年３月20日(土／祝)～５月30日(日)

**主　　催**　「マリーナ・アブラモヴィッチ —The Star—」展実行委員会、丸亀市猪熊弦一郎現代美術館、財団法人ミモカ美術振興財団

**後　　援**　オランダ総領事館

**巡 回 先**　2003年11月22日(土)～2004年２月１日(日)　熊本市現代美術館




世界的パフォーマンス・アーティスト、マリーナ・アブラモヴィッチの日本初となる大規模な回顧展を開催した。1946年旧ユーゴスラビア、ベオグラード生まれのアブラモヴィッチは1960年代後半から自らの肉体を用いたパフォーマンスを始め高い評価を得てきた。また1975年から88年まで公私にわたるパートナーであったドイツ人アーティスト、ウーライとのコラボレーションもよく知られている。現在はソロで活躍を続けており、パフォーマンス、オブジェ、映像作品とその活動領域は幅広い。

本展ではゲスト・キュレーターにアブラモヴィッチと同じベオグラード出身の世界的キュレーター、ボヤーナ・ペイジ氏を招き、最新作を含む写真、映像、オブジェなど30点を展示した。

国内では熊本市現代美術館との２会場のみによる巡回展であったこともあり関心が高く、アブラモヴィッチが見せる人間存在の極限に挑戦するような作品、また精神の在りようを探求する作品が観客に衝撃を与えていたようである。

**刊行物**　カタログ

関連企画

**レクチャー１**

３月20日（土／祝）　13時～14時
テ ー マ　「Performing Body(パフォーミング・ボディ)」(逐次通訳有)
講　　師　マリーナ・アブラモヴィッチ
会　　場　２階ミュージアムホール
聴講者数　169人

入場者数　**7,714**人

### レクチャー2

3月21日(日)　13時～14時
テ ー マ　「Abramovic and Context (アブラモヴィッチとそのコンテクスト)」(逐次通訳有)
講　　師　ボヤーナ・ペイジ(本展ゲスト・キュレーター)
会　　場　2階ミュージアムホール
聴講者数　65人

### レクチャー3

5月23日(日)　13時～14時30分
テ ー マ　「Girls from Eastern Europe —東欧美術の女たち」
講　　師　南嶌宏（熊本市現代美術館副館長、本展オーガナイザー）
会　　場　2階ミュージアムホール
聴講者数　34人

### ビデオ作品上映

日　　時　展覧会会期中毎土・日・祝日13時～(各60分作品)
＊5月16日はホール事業のため除く　計25回
上映作品　「Balkan Baroque」「The Lovers —The Great Wall Walk」
会　　場　2階ミュージアムホール
聴講者数　合計478名

### ワークショップ

4月11日(日)、18日(日)　13時～16時
テ ー マ　「マリーナ・アブラモヴィッチへの道」
講　　師　美術館職員
会　　場　2階造形スタジオ、3階展示室
参加者数　5人(4月11日)
13人(4月18日)　合計18人

### ギャラリートーク(担当学芸員による)

3月28日(日)、4月25日(日)、5月23日(日)
14時～
参加者数　71人(3日間合計)

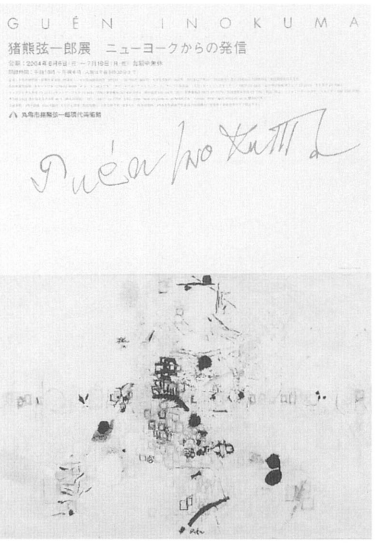
### ペア・ウィーク

ペアでの来館者は1人分の観覧料を無料とした
日　　時　5月10日(月)～5月16日(日)
該当者数　228名(456ペア)

# 78 猪熊弦一郎展　ニューヨークからの発信

**会　　期**　2004年６月６日(日)～７月19日(月／祝)

**主　　催**　丸亀市猪熊弦一郎現代美術館
財団法人ミモカ美術振興財団




1955年の渡米をきっかけに、猪熊は制作と生活の拠点をニューヨークに移し20年間に及ぶ滞米中、ウィラード・ギャラリーの所属作家として全10回の個展を開催した。同画廊は、西海岸出身のマーク・トビー、モーリス・グレイブス、日系アメリカ人のタダシ・サトー、そして彫刻家のデイビッド・スミスなどの優れた作家が所属作家として名を連ねるニューヨークでも著名な画廊であった。

抽象表現主義という新たな芸術の誕生によって活気を帯びた当時のニューヨークには、ポップアート、ネオダダといった新たな芸術が次々と登場していた。猪熊はその潮流の中に身を置くことで、抽象画家としての再出発を決意し、新たな芸術を模索していく中で、作品は渡米直後の抽象表現主義の洗礼を受けつつ日本的な題材を用いたものから、やがて自分を魅了したニューヨークの都市を短い線の集合によって表現したものへ、そして風景を捉えたものへと時間の流れとともに移り変わっていった。

滞米中、猪熊は各種の国際展など多くの展覧会にも参加し、幅広く活躍の場を得ているが、今展ではウィラード・ギャラリーでの発表作品に限って展示した。個展という同じスタイルで、約２年ごとのサイクルで発表された作品群により、順次その変遷を追うことが今回の試みである。また、作品だけではなく、個展会場の様子を伝えるために猪熊の友人で画家近藤竜男氏らが撮影した展示風景の写真を補助的に展示した。

**制作物**　カタログ

**関連企画**

ギャラリートーク(担当学芸員による)
６月６日(日)、７日(月)、20日(日)
７月４日(日)、５日(月)、18日(日)
14時～
参加者数　76人(６日間合計)

入場者数　**3,518**人

## 作品リスト

| No. | 作品名 | 制作年 | 技法・材質 | サイズ(縦×横cm) |
|---|---|---|---|---|
| 第1回展(1956.4.3－28) | | | | |
| 1 | Garden (庭) | 1956 | 油彩・カンヴァス | 175.3×106.7 |
| 第2回展(1957.2.26－3.23) | | | | |
| 2 | 竹籔 | 1956 | 油彩・カンヴァス | 154.8×175.2 |
| 3 | Hiyaku (飛躍) | 1956 | 油彩・カンヴァス | 198.7×152.7 |
| 4 | Color Land (色彩の地) | 1956 | 油彩・カンヴァス | 124.5×178.8 |
| 第3回展(1958.10.7－11.1) | | | | |
| 5 | Sky Promenade (空の散歩) | 1957 | 油彩・カンヴァス | 111.8×127.0 |
| 6 | Diving (ダイビング) | 1958 | 油彩・カンヴァス | 202.1×127.1 |
| 第4回展(1960.10.4－29) | | | | |
| 7 | 空の散歩 | 1958 | 油彩・カンヴァス | 203.3×178.0 |
| 8 | 黄色の反響 | 1960 | 油彩・カンヴァス | 200.3×175.0 |
| 9 | 白い孔 | 1960 | 油彩・カンヴァス | 173.8×201.0 |
| 10 | Sit Opposite on a Head (頭上と反対に座る) | 1960 | 油彩・カンヴァス | 178.0×140.0 |
| 第5回展(1962.10.30－11.24) | | | | |
| 11 | Yagibushi (八木節) | 1962 | 油彩・カンヴァス | 203.5×172.8 |
| 12 | 獅子舞 | 1961 | 油彩・カンヴァス | 203.0×183.0 |
| 13 | Birth of Gray (灰色の誕生) | 1962 | 油彩・カンヴァス | 203.2×127.1 |
| 14 | 月へのいざない | 1962 | 油彩・カンヴァス | 152.7×109.3 |
| 15 | Teen Agers (ティーンエイジャー) | 1962 | 油彩・カンヴァス | 157.9× 91.6 |
| 16 | Twist (ツイスト) | 1962 | 油彩・カンヴァス | 157.2× 91.5 |
| 17 | 太陽の日 | 1962 | 油彩・カンヴァス | 127.0×102.0 |
| 第6回展(1964.9.29－10.24) | | | | |
| 18 | Confusion and Order "A" (混乱と秩序"A") | 1964 | 油彩・カンヴァス | 203.1×177.8 |
| 19 | Black Circle (ブラックサークル) | 1964 | 油彩・カンヴァス | 152.8×152.4 |
| 20 | Snake Line (スネークライン) | 1964 | 油彩・カンヴァス | 126.7×203.5 |
| 第7回展(1967.2.14－3.18) | | | | |
| 21 | Blue Streets (ブルーストリート) | 1966 | アクリル・カンヴァス | 171.9× 98.9 |
| 22 | Manhattan "B" (マンハッタン"B") | 1967 | アクリル・カンヴァス | 203.7×152.6 |
| 第8回展(1968.10.8－11.2) | | | | |
| 23 | The City Blue No.2 (街・青No.2) | 1968 | アクリル・カンヴァス | 203.0×178.5 |
| 24 | The City (Green No.2)(街(緑No.2)) | 1968 | アクリル・カンヴァス | 203.0×178.0 |
| 第9回展(1970.10.13－11.4) | | | | |
| 25 | Two Shores A (二つの岸A) | 1970 | アクリル・カンヴァス | 203.3×178.0 |
| 26 | Two Shores (Yellow) (二つの岸(黄色)) | 1970 | アクリル・カンヴァス | 203.0×178.0 |
| 27 | Water Shores A (水辺A) | 1970 | アクリル・カンヴァス | 203.3×178.0 |
| 第10回展(1972.10.3－28) | | | | |
| 28 | Landscape EV (風景EV) | 1972 | アクリル・カンヴァス | 203.0×178.0 |
| 29 | Landscape GT (風景GT) | 1972 | アクリル・カンヴァス | 203.0×178.5 |
| 30 | Landscape DW (風景DW) | 1972 | アクリル・カンヴァス | 203.6×178.0 |
| 31 | Landscape IR (風景IR) | 1972 | アクリル・カンヴァス | 127.7×102.2 |

# 79 やなぎみわ〔少女地獄極楽老女〕展

**会　　期**　2004年７月25日(日)～９月12日(日)

**主　　催**　丸亀市猪熊弦一郎現代美術館、財団法人ミモカ美術振興財団

**後　　援**　朝日新聞高松総局、産経新聞高松支局、山陽新聞社、四国新聞社、日本経済新聞社高松支局、毎日新聞高松支局、読売新聞高松総局、ＮＨＫ高松放送局、岡山放送、ＫＳＢ瀬戸内海放送、山陽放送、ＴＳＣテレビせとうち、西日本放送

**助　　成**　芸術文化振興基金、財団法人地域創造

**協　　賛**　株式会社資生堂

**認　　定**　社団法人企業メセナ協議会

日本の現代美術を代表するアーティストの一人、やなぎみわの国内初となる大規模個展を開催した。やなぎはＣＧを用いた写真作品や映像作品で国内外から高い評価を得ているが、本展では、若い女性が半世紀後の自分について語り、そのイメージどおりにモデルとして登場、特殊メイクやＣＧにより「理想のおばあさん像」として表現された作品シリーズ「My Grandmothers」や、老女と少女が登場する寓話の場面をヒントに密室の中で少女モデルたちが老若を往還し、その交換と混合を繰り広げるというこれまでの作品とは対極の表現が見られる新作シリーズ「寓話」など30点を展示した。

作品テーマに「老い」が含まれることもあり、広い世代に渡り関心を集めていたようである。また新作制作にあたってはモデルを地元から公募したり、地域の小・中学生に参加を求めるなど、作品鑑賞だけでは得られない現代美術への新たな接点を持つことができるように機会を設けたが、各々に貴重な経験となっていたようである。

**刊行物**　カタログ
**制作物**　作品リスト、子どもチラシ

関連企画

**記念講演会**
７月25日(日)　13時～
テ ー マ　「老女の物語」
講　　師　やなぎみわ
会　　場　２階ミュージアムホール
聴講者数　243人

**ワークショップ**
８月21日(土)　10時～15時
テ ー マ　「『老い』を試みる
－老童男女の写真館」
講　　師　やなぎみわ
会　　場　２階造形スタジオ
参加者数　11人

**ギャラリートーク(担当学芸員による)**
８月８日(日)、９月４日(土)　13時30分～
参加者数　66人(２日間合計)

入場者数　**8,756**人

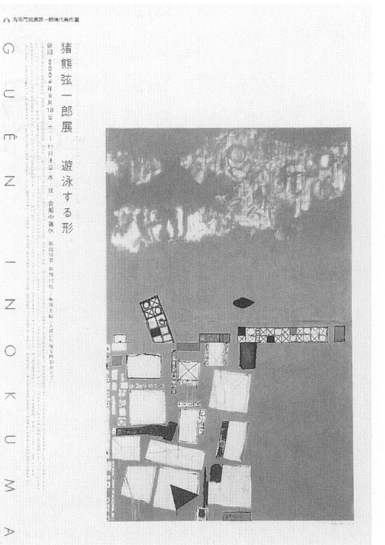
## 作品リスト

| No. | 作　品　名 | 制作年 | 技法 | サイズ(縦×横cm) | 所　蔵 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | My Grandmothers：YUKA | 2000 | ライトジェットプリント | 160.0×160.0 | 作家 |
| 2 | My Grandmothers：MIE | 2000 | ライトジェットプリント | 120.0×160.0 | 作家 |
| 3 | My Grandmothers：SACHIKO | 2000 | ライトジェットプリント | 86.7×120.0 | 作家 |
| 4 | My Grandmothers：MINAMI | 2000 | ライトジェットプリント | 133.0×160.0 | 作家 |
| 5 | My Grandmothers：HIROKO | 2001 | Cプリント | 120.0×144.0 | 作家 |
| 6 | My Grandmothers：AYUMI | 2001 | Cプリント | 58.3×100.0 | 個人 |
| 7 | My Grandmothers：REGINE＆YOKO | 2001 | ライトジェットプリント | 128.0×160.0 | 作家 |
| 8 | My Grandmothers：YOSHIE | 2001 | Cプリント | 83.3×100.0 | 作家 |
| 9 | My Grandmothers：MIKA | 2001 | Cプリント | 150.0×180.0 | 作家 |
| 10 | My Grandmothers：MIWA | 2001 | Cプリント | 100.0×120.0 | 作家 |
| 11 | My Grandmothers：MIKIKO | 2001 | ライトジェットプリント | 100.0× 72.8 | 作家 |
| 12 | My Grandmothers：ERIKO | 2001 | ライトジェットプリント | 120.0×180.0 | 作家 |
| 13 | My Grandmothers：RYUEN | 2002 | ライトジェットプリント | 76.5× 90.0 | 作家 |
| 14 | My Grandmothers：MISAKO | 2002 | ライトジェットプリント | 120.0× 80.0 | 作家 |
| 15 | My Grandmothers：GEISHA (AKIYO, MAI, HITOMI, NORIKO) | 2002 | Cプリント | 180.0×240.0 | 作家 |
| 16 | My Grandmothers：MINEKO | 2002 | ライトジェットプリント | 87.5×120.0 | 作家 |
| 17 | My Grandmothers：ESTELLE | 2003 | ライトジェットプリント | 120.0× 90.0 | 作家 |
| 18 | My Grandmothers：AI | 2003 | ライトジェットプリント | 180.0×240.0 | 作家 |
| 19 | My Grandmothers：SHIZUKA | 2004 | ライトジェットプリント | 140.0×100.0 | 作家 |
| 20 | My Grandmothers：KAHORI | 2004 | ライトジェットプリント | 64.0× 80.0 | 作家 |
| 21 | Granddaughters | 2004 | ビデオ・インスタレーション | | 作家 |
| 22 | 寓話シリーズ　眠り姫 | 2004 | ゼラチン・シルバー・プリント | 100.0×100.0 | 作家 |
| 23 | 寓話シリーズ　グレーテル | 2004 | ゼラチン・シルバー・プリント | 100.0×100.0 | 作家 |
| 24 | 寓話シリーズ　白雪 | 2004 | ゼラチン・シルバー・プリント | 100.0×100.0 | 作家 |
| 25 | 寓話シリーズ　ラプンツエル | 2004 | ゼラチン・シルバー・プリント | 100.0×100.0 | 作家 |
| 26 | 寓話シリーズ　赤ずきん | 2004 | ゼラチン・シルバー・プリント | 100.0×100.0 | 作家 |
| 27 | 寓話シリーズ　エレンディラ | 2004 | ゼラチン・シルバー・プリント | 100.0×100.0 | 作家 |
| 28 | 寓話シリーズ　無題Ⅰ | 2004 | ゼラチン・シルバー・プリント | 140.0×100.0 | 作家 |
| 29 | 寓話シリーズ　無題Ⅱ | 2004 | ゼラチン・シルバー・プリント | 140.0×100.0 | 作家 |
| 30 | 砂少女 | 2004 | ビデオ・インスタレーション | | 作家 |

# 80 猪熊弦一郎展　遊泳する形

**会　　期**　2004年９月18日(土)～11月３日(水／祝)

**主　　催**　丸亀市猪熊弦一郎現代美術館
財団法人ミモカ美術振興財団




「モノ」としてではなく「形」としての意識をもって見ると、身の回りには実にたくさんの「形」が存在している。本展では画家、猪熊弦一郎（1902－93）が1970年代後半から1990年にかけて、特に「形」を描いた作品約40点を展示。

猪熊は1973年（当時70歳）に患った脳血栓を機に、20年間に及ぶニューヨークでの生活に終止符を打ち、1975年から生活と制作の拠点を東京と、冬の間はハワイに移した。1955年の渡米を機に抽象画家として歩み始めた頃から、一構成要素として丸や角などの「形」を画面に登場させていたが、ハワイに移ってしばらくした頃から、真白または一色の背景に、丸みを帯びた有機的な形、鋭角を持つ直線を基調とした形など様々な大きさの形が、画面空間をあたかも意志を持って遊泳するかのごとくに描かれるようになった。またこの時期に猪熊の心をとらえていたのは「宇宙」。すべてを内包する宇宙空間を、画家としての無限の可能性を求める白いカンヴァスの画面空間に重ねつつ自由に描いた「形」を、開放感のあるミモカの展示室でご紹介した。

**刊行物**　カタログ
**制作物**　子どもチラシ

関連企画

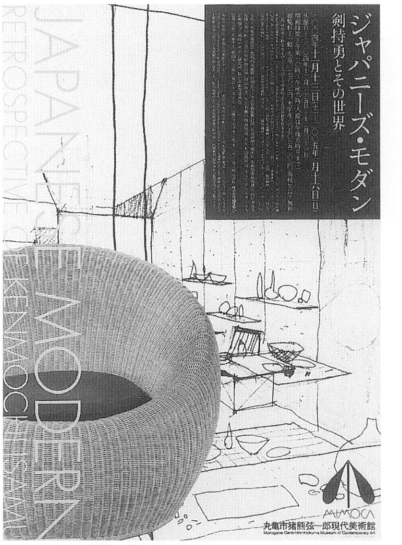
ギャラリートーク(担当学芸員による)
【大人組】
９月19日(日)、26日(日)
10月10日(日)、24日(日)　14時～
　参加者数　53人(４日間合計)
【家族組】
10月３日(日)、17日(日)、31日(日)　14時～
　参加者数　５人(３日間合計)

入場者数　**5,033**人

## 作品リスト

| No. | 作　品　名 | 制作年 | 技法・材質 | サイズ(縦×横cm) |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 透明なる都市 | 1978 | アクリル・カンヴァス | 136.0×122.2 |
| 2 | ターゲット達と三角 | 1979 | アクリル・カンヴァス | 136.5×122.5 |
| 3 | 宇宙は機械の運動場No.1 | 1981 | アクリル・カンヴァス | 200.0×140.0 |
| 4 | 宇宙都市計画 | 1981 | アクリル・カンヴァス | 121.5×136.0 |
| 5 | 空の遊園地 | 1981 | アクリル・カンヴァス | 122.0×101.2 |
| 6 | スペース都市（B） | 1982 | アクリル・カンヴァス | 122.0×101.5 |
| 7 | 宇宙生物の限界 | 1982 | アクリル・カンヴァス | 116.7× 91.0 |
| 8 | 星座の中の小さな五つの丸 | 1983 | アクリル・カンヴァス | 152.0×182.0 |
| 9 | 星座からの返信 | 1983 | アクリル・カンヴァス | 136.0×121.5 |
| 10 | 明るい遊歩 | 1983 | アクリル・カンヴァス | 136.0×121.5 |
| 11 | 空中発芽 | 1983 | アクリル・カンヴァス | 126.2× 96.0 |
| 12 | もう一つの地球 | 1983 | アクリル・カンヴァス | 126.0× 91.0 |
| 13 | 遊泳する窓 | 1984 | アクリル・カンヴァス | 194.0×290.6 |
| 14 | 窓 | 1984 | アクリル・カンヴァス | 194.0×130.3 |
| 15 | 都市の中の星座 | 1984 | アクリル・カンヴァス | 126.5× 96.0 |
| 16 | 宇宙への入場券 | 1984 | アクリル・カンヴァス | 126.5× 91.2 |
| 17 | アリゾナ通信 | 1984 | アクリル・カンヴァス | 111.2× 96.0 |
| 18 | 窓と星座 | 1985 | アクリル・カンヴァス | 194.0×258.8 |
| 19 | 星座（A） | 1985 | アクリル・カンヴァス | 100.0× 80.3 |
| 20 | 通信衛星 | 1986 | アクリル・カンヴァス | 194.0×259.0 |
| 21 | 黄色の星座 | 1986 | アクリル・カンヴァス | 182.0×152.0 |
| 22 | 星と目 | 1986 | アクリル・カンヴァス | 153.0×122.0 |
| 23 | 銀河の門No.2 | 1986 | アクリル・カンヴァス | 136.0×122.0 |
| 24 | 明るい集落 | 1986 | アクリル・カンヴァス | 136.0×122.0 |
| 25 | 形のパレード | 1986 | アクリル・カンヴァス | 111.8× 96.0 |
| 26 | 太陽は待って居る | 1987 | アクリル・カンヴァス | 194.0×130.3 |
| 27 | 金環食 | 1987 | アクリル・カンヴァス | 152.0×120.9 |
| 28 | 未知の世界への着地 | 1987 | アクリル・カンヴァス | 137.2×122.0 |
| 29 | 宇宙都市計画 | 1987 | アクリル・カンヴァス | 135.8×121.0 |
| 30 | 宇宙都市休日 | 1991 | アクリル・カンヴァス | 400.9×250.5 |
| 31 | 角の群落 | 1978 | アクリル・紙 | 74.8× 54.8 |
| 32 | 丸の世界 | 1980 | アクリル・紙 | 53.9× 34.0 |
| 33 | 自由型体（フリーシェイプ） | 1981 | アクリル・紙 | 36.0× 51.4 |
| 34 | 整った空中都市 | 1982 | アクリル・紙 | 74.5× 55.7 |
| 35 | 面白い仲間 | 1982 | アクリル、鉛筆、コラージュ・紙 | 59.4× 44.4 |
| 36 | 機械生活 | 1982 | アクリル・紙 | 59.5× 44.4 |
| 37 | 遊泳都市 | 1983 | アクリル・紙 | 43.9× 36.6 |
| 38 | 都市集合 | 1983 | アクリル・紙 | 44.0× 36.5 |
| 39 | 休息タイム | 1985 | アクリル・紙 | 59.0× 46.4 |
| 40 | パイピング集合A | 1986 | アクリル・紙 | 58.3× 47.0 |
| 41 | 広場の歌 | 1986 | アクリル・紙 | 54.4× 41.5 |
| 42 | 指とアンテナ | 1987 | アクリル・紙 | 76.0× 56.0 |

# 81 ジャパニーズ・モダン―剣持勇とその世界




**会　　期**　2004年11月13日(土)～2005年１月16日(日)

**主　　催**　丸亀市猪熊弦一郎現代美術館、財団法人ミモカ美術振興財団、読売新聞社大阪本社、美術館連絡協議会、西日本放送

**後　　援**　香川県、ＮＨＫ高松放送局、岡山放送、ＫＳＢ瀬戸内海放送、山陽放送、ＴＳＣテレビせとうち

**企画協力**　剣持デザイン研究所、松戸市教育委員会

**協　　賛**　株式会社天童木工、秋田木工株式会社、株式会社ワイ・エム・ケー、株式会社コトブキ、有限会社モノ・モノ、花王株式会社、株式会社ダスキン

**巡 回 先**　2004年９月４日(土)～10月３日(日)秋田市立千秋美術館
2004年10月８日(金)～11月３日(水・祝)京都国立近代美術館
2005年１月22日(土)～２月20日(日)松戸市立博物館

剣持勇（1912－1971）は1932年に東京高等工芸学校木材工芸科を卒業し、商工省工芸指導所に入所して以来、一貫して日本のデザインの指導的な立場にたって牽引し続けた。指導所時代には来日したドイツ人建築家ブルーノ・タウトの薫陶を得てモダン・デザインの実践に邁進し、家具の規格化などに大きな成果をあげた。

猪熊弦一郎らが創立会員となる新制作派協会では1949年に建築部を設立。新制作派協会建築部では作品として設計図や写真、模型のみならず家具類を発表していたため、当時発表の場の少なかったインテリアデザイナーに対しても新しい発表の場を提供することになった。剣持は間もなく会員となって1951年より建築部に家具を出品、自らが提唱したジャパニーズ・モダンの理念を追求した。

1955年に独立してデザイン事務所を構え、折から日本の戦後建築がモダニズムの興隆を迎えるなかで、新制作派協会建築部の設立会員である丹下健三、前川国男、そして佐藤武夫、芦原義信ら建築家との共同作業を通じて建築空間に独自の個性を発揮していった。その初期の仕事として、丹下設計による香川県庁、香川県立体育館のインテリアデザインを担当したことからも、剣持と香川県の繋がりは強い。

今回の展覧会は剣持デザイン研究所の全面的協力を得て、剣持の生涯にわたる活動を振り返ると同時に、同時代のデザイナー豊口克平や渡辺力、親交のあった彫刻家イサム・ノグチ、画家猪熊弦一郎などの作品も併せて展示し、剣持勇の世界を総合的に検証した。

入場者数　**6,890**人

関連企画

記念対談

11月23日(火／祝)　14時～
テ ー マ「剣持からみた猪熊弦一郎」
対 談 者　松本哲夫
（剣持勇デザイン研究所所長）
森仁史
（松戸市教育委員会・学芸員）
会　　場　2階ミュージアムホール
聴講者数　68人

ワークショップ

12月11日(土)、12日(日)　10時～12時
テ ー マ「ベリーないす2」
講　　師　中村哲也（現代美術作家）
会　　場　2階造形スタジオ
参加者数　20人(12月11日)、20人(12日)
合計40人

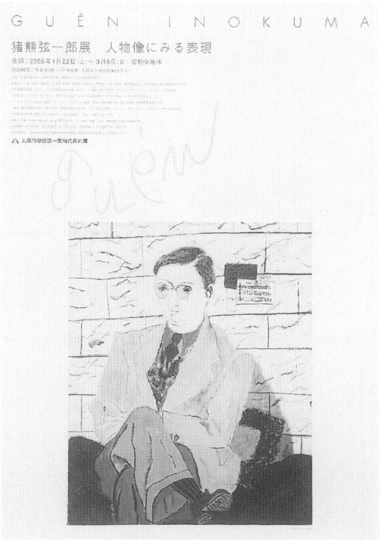
ギャラリートーク(担当学芸員による)

11月28日(日)、12月12日(日)、1月9日(日)
14時～
参加者数　59人(3日間合計)

# 82 猪熊弦一郎展　人物像にみる表現

**会　　期**　2005年１月22日(土)～３月６日(日)

**主　　催**　丸亀市猪熊弦一郎現代美術館
財団法人ミモカ美術振興財団




東京美術学校を離れ帝国美術院展や光風会へと活躍の場を広げた頃の猪熊は、文子夫人やモデルたちを豊かな筆致で写実的に表現していた。その後のフランス滞在中にはピカソや直接指導を受けたマティスの影響を受けパリで生活する人々の姿を、帰国後は当時飼っていた猫と人物を組み合わせた抽象的な人物像を描いた。

1955年の渡米を機に、都市や風景、宇宙をテーマに抽象画家としての作品制作を続け人物の表現から距離をおくようになったが、1988年妻文子の死をきっかけに「顔」そして「裸婦」などを幾何学的な形とともに表した人物像を再び描くようになった。猪熊の長い画歴の中で「人物像」は大きな割合を占めている。

本展覧会では、初期から晩年において人物を描いた作品に絞り、４つのテーマに分け、「人物像」のさまざまな表現を展観した。モデルの姿を丁寧に捉えた初期からモデルを必要とせずに描いた後期の作品までを追った作品による＜人物＞、人物の中でもとくに「顔」のみを描いた＜顔＞、「手」「足」「背中」など体の各部分に着目した作品を集めた＜部分＞、人体の形態に顔を擬似的にくみこんだ作品や四角や丸など幾何学的な形の集合によって人物を表した作品などによる＜変容した人物＞。猪熊によって多様に変化する「人物像」の表現を紹介した。

**制作物**　カタログ

**関連企画**

ギャラリートーク(担当学芸員による)
１月23日(日)、２月６日(日)、20日(日)、
３月６日(日)　14時～
参加者数　45人（４日間合計）

ミモカ子ども探偵団―いのくま作品のナゾをとく!
１月30日(日)、２月13日(日)、27日(日)
14時～
参加者数　25人＋保護者６人(３日間合計)

入場者数　**3,206**人

**作品リスト**

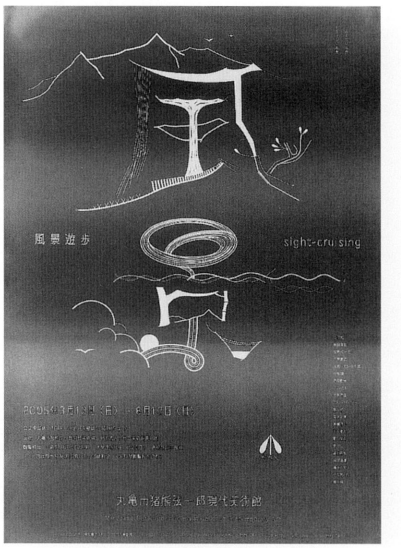
| No. | 作　品　名 | 制作年 | 技法・材質 | サイズ(縦×横cm) |
|---|---|---|---|---|
| 【人物像】 | | | | |
| 1 | 母の像 | 1924 | 油彩・カンヴァス | 72.8× 60.8 |
| 2 | ギターを持った女 | 1930 | 油彩・カンヴァス | 53.0× 45.5 |
| 3 | 文子座像 | 1933頃 | 油彩・カンヴァス | 72.7× 49.8 |
| 4 | にんにくを売る子供 | 1938 | 油彩・カンヴァス | 91.5× 53.4 |
| 5 | 魚と女 | 1939 | 油彩・カンヴァス | 91.5× 53.4 |

| No. | 作品名 | 制作年 | 技法・材質 | サイズ(縦×横cm) |
|---|---|---|---|---|
| 6 | K君の像 | 1939 | 油彩・カンヴァス | 80.5× 64.4 |
| 7 | セロを弾く男 | 1939 | 油彩・カンヴァス | 60.8× 45.7 |
| 8 | 葉と立つ子供 | 1940 | 油彩・カンヴァス | 80.5× 54.0 |
| 9 | 子供達 | 1940 | 油彩・カンヴァス | 54.8× 46.0 |
| 10 | 馬と女性 | 1940 | 油彩・カンヴァス | 72.0× 60.0 |
| 11 | フィリッピンの子供 | 1942頃 | 油彩・カンヴァス | 71.5× 52.0 |
| 12 | マニラ　二人少女 | 1942 | 油彩・カンヴァス | 53.0× 41.0 |
| 13 | 黄色いスカートの婦人 | 1946 | 油彩・カンヴァス | 80.5× 64.5 |
| 14 | 壺と婦人座像 | 1950 | 油彩・カンヴァス | 80.0× 65.0 |
| 15 | 立てる群像 | 1951 | 油彩・カンヴァス | 131.5×162.4 |
| 16 | 鳥と遊ぶ子供達 | 1954 | 油彩・カンヴァス | 193.5×130.0 |
| 17 | 建築と裸婦 | 1990 | アクリル・カンヴァス | 126.5× 96.0 |
| 18 | 青い裸婦 | 1990 | アクリル・カンヴァス | 130.5× 97.2 |
| 19 | ドラマティックステージ | 1991 | アクリル・カンヴァス | 96.0×111.0 |
| 【顔】 | | | | |
| 20 | 顔 | 1938 | 油彩・カンヴァス | 41.0× 33.0 |
| 21 | 緑の顔 | 1938 | 油彩・カンヴァス | 40.1× 31.6 |
| 22 | Portrait de Mr. Kurachi | 1939 | 油彩・カンヴァス | 41.0× 33.1 |
| 23 | 葉をくはへた少女 | 1939 | 油彩・カンヴァス | 52.7× 44.7 |
| 24 | 頭上猫 | 1952 | 油彩・カンヴァス | 45.5× 37.8 |
| 25 | 子供と猫 | 1955 | 油彩・カンヴァス | 45.3× 38.0 |
| 26 | 顔23（B） | 1988 | アクリル・カンヴァス | 100.0× 80.5 |
| 27 | 顔20C | 1989 | アクリル・カンヴァス | 152.0×121.4 |
| 28 | 顔　眼 | 1991 | アクリル・カンヴァス | 91.2× 73.0 |
| 29 | 顔11（K） | 1992 | アクリル・カンヴァス | 91.0× 65.5 |
| 30 | 緑の中の美しき顔 | 1992 | アクリル・カンヴァス | 110.0× 96.0 |
| 【部分】 | | | | |
| 31 | 題名不明 | 1933頃 | 油彩・カンヴァス | 80.5× 60.5 |
| 32 | 昼 | 1937 | 油彩・カンヴァス | 191.5×129.0 |
| 33 | サクランボ | 1939 | 油彩・カンヴァス | 80.4× 65.4 |
| 34 | 妻と手袋 | 1939 | 油彩・カンヴァス | 80.8× 60.0 |
| 35 | 浴女 | 1940 | 油彩・カンヴァス | 80.5× 64.5 |
| 36 | Foumiko | 1944 | 油彩・板 | 40.8× 31.5 |
| 37 | 空の遊園地 | 1981 | アクリル・カンヴァス | 122.0×101.2 |
| 38 | 体操と水 | 1987 | アクリル・カンヴァス | 136.0×121.0 |
| 39 | 単純なるスケジュール | 1992 | アクリル・カンヴァス | 96.0×127.0 |
| 40 | 題名不明 | 1992 | アクリル・カンヴァス | 107.0× 81.8 |
| 【変容した人物】 | | | | |
| 41 | 黄昏 | 1937 | 油彩・カンヴァス | 193.5×130.5 |
| 42 | ヴィナス誕生（A） | 1940 | 油彩・カンヴァス | 79.5× 64.5 |
| 43 | 猫によせる歌 | 1952 | 油彩・カンヴァス | 181.5×259.0 |
| 44 | 馬と道化 | 1955 | 油彩・カンヴァス | 117.0× 91.0 |
| 45 | 子供と発見 | 1984 | アクリル・カンヴァス | 121.5×101.0 |
| 46 | 顔17 | 1988 | アクリル、コンテ、コラージュ・カンヴァス | 127.0× 96.5 |
| 47 | 顔25 | 1988 | アクリル、コラージュ・カンヴァス | 136.0×121.0 |
| 48 | ポートレイトの会話 | 1988 | アクリル・カンヴァス | 194.0×130.0 |
| 49 | ヴィナス二人 | 1990 | アクリル・カンヴァス | 130.4× 97.0 |
| 50 | 裸婦2 | 1990 | アクリル・カンヴァス | 136.0×121.5 |
| 51 | カツカツ歩く | 1990 | アクリル・カンヴァス | 126.5× 95.0 |
| 52 | 鳥とドール | 1990 | アクリル・カンヴァス | 112.0× 96.0 |

# 83 風景遊歩 sight-cruising

**会　　期**　2005年３月13日(日)～６月12日(日)

**主　　催**　丸亀市猪熊弦一郎現代美術館
財団法人ミモカ美術振興財団




風景を、身近なものであると同時に日常では見落とされがちなものであり、さらに時代や地域、また個人の認識の仕方によって、その言葉から連想されるイメージが千差万別なものと捉え、風景について美術作品を通して再考した展覧会。風景の多様性を表すため、絵画、彫刻から写真表現や映像、サウンドアートまで技法や制作年の異なる国内外のアーティスト21名の作品30点を出品し、風景表現がひらく外界と自己とを双方向に結ぶ回路を遊歩し、それぞれの「風景」を見つける機会とした。

展覧会は《あたらしい風景》と《みえない風景》という２つのセクションで構成し、《あたらしい風景》では、作品に描かれてはじめて意識に上った世界に気付くとともに、その風景を見出したまなざしに触れ、未知の世界が未だ多く残されていることを示した。また《みえない風景》では、作品の世界に自分の内面を照らし合わせることで、想像力がつくりだす内なる風景の拡がりを誘発し、内面を旅するための入口を提示した。また様々な視点から風景を捉える機会を設けるため、会期中には多彩な関連行事も行なった。

**刊行物**　カタログ
**制作物**　セルフガイド、子どもチラシ

**関連企画**

アーティスト・トーク１
３月13日(日)　14時～15時30分
テ ー マ　「風景と音」
講　　師　藤本由紀夫（本展出品作家）
会　　場　２階ミュージアムホール
聴講者数　67人

アーティスト・トーク２
４月23日(土)　14時～15時30分
テ ー マ　「自然は時間と共に真の姿を現す」
講　　師　野村仁（本展出品作家）
会　　場　２階ミュージアムホール
聴講者数　44人

入場者数　**9,454**人

### ワークショップ①

4月9日(土)、10日(日)、23日(土)、24日(日)
10時～16時

テ ー マ　「春の光の収集」
講　　師　小山田徹(美術家)
会　　場　2階造形スタジオ、屋外
対　　象　子どもから一般
　　(小学6年生以下は保護者同伴)
参加者数　69人（4日間合計）

### ワークショップ②

5月14日(土)、15日(日) 13時～16時

テ ー マ　「2000年後の風景をつくろう！！」
講　　師　柴川敏之（美術作家・福山市立
　　女子短期大学助教授）
会　　場　2階造形スタジオ
対　　象　子どもから一般
　　（6才以下は保護者同伴）
参加者数　61人（2日間合計）

### ギャラリー・トーク(担当学芸員による)

3月19日(土)、4月2日(土)、17日(日)、
　29日(金／祝)、5月21日(土)、6月5日(日)
14時～

参加者数　66人(6日間合計)

### 本を巡るユトレヒトの旅

5月3日(火／祝)、4日(水／休)、5日(木／祝)
10時～18時

会　　場　1階ゲートプラザ
来店者数　約1,800人(3日間合計)

### オープン・カフェ

5月3日(火／祝)、4日(水／休)、5日(木／祝)
10時～18時

会　　場　1階ゲートプラザ
注文者数　103人(3日間合計)

## 作品リスト

| No. | 作者名 | 作品名 | 制作年 | 技法・材質 | サイズ(縦×横あるいは高×横×奥行cm) | 所蔵 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| あたらしい風景 | | | | | | | |
| 1－1 | 香月泰男 | 散歩 | 1953 | 油彩・カンヴァス | 72.5 ×116.5 | 愛知県美術館 | |
| 1－2 | 猪熊弦一郎 | The City Planning | 1962-63 | 油彩・カンヴァス | 203.5×177.6 | 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館 | |
| 1－3 | 牛島憲之 | 埋れる船 | 1962 | 油彩・カンヴァス | 72.5 ×116.5 | 愛知県美術館 | |
| 1－4 | 福岡道雄 | 琵琶湖の凪 | 1982 | FRP | 47.1 ×183.8×120.7 | 名古屋市美術館 | |
| 1－5 | 野村仁 | 赤道上の太陽 | 1989 | ゼラチン・シルバープリント、プラスチック | 140.0×352.0×60.0 | 豊田市美術館 | |
| 1－6 | 柳幸典 | The World Flag Ant Farm 1991－Asia | 1991 | 彩色砂、プラスチックボックス、プラスチックチューブ、ビデオテープ、モニター | 176.5×741.5 | 広島市現代美術館 | |
| 1－7 | やなぎみわ | アクアジェンヌ イン パラダイスⅡ | 1995 | Cプリント、アクリル密着加工 | 各200×100.0×3点組 | 国立国際美術館 | |
| 1－8 | 秋岡美帆 | 光の間 | 1996 | NECOプリント・麻紙 | 222.0×275.0 | 国立国際美術館 | |
| 1－9 | 畠山直哉 | Underground ＃6205 | 1998 | Cプリント | 49.0 ×49.0 | 国立国際美術館 | |
| 1－10 | 畠山直哉 | Underground ＃6411 | 1999 | Cプリント | 49.0 ×49.0 | 国立国際美術館 | |
| 1－11 | 畠山直哉 | Underground ＃6912 | 1999 | Cプリント | 49.0 ×49.0 | 国立国際美術館 | |
| 1－12 | 曽根裕 | スノウ・ジャングル | 2000 | 油彩・カンヴァス | 130.8×161.3 | 豊田市美術館 | |
| 1－13 | 曽根裕 | パーム・ツリー | 2002 | 木、粘土、ラテックス、ワイアー | 103.0×23.5 ×18.0 | 豊田市美術館 | |
| 1－14 | 高橋信行 | ドライブ | 2003 | 油彩、木炭・カンヴァス | 130.3×97.0 | 作家 | 出品協力：白土舎 |
| 1－15 | 高橋信行 | ひかる！金閣寺 | 2004 | アクリル・カンヴァス | 116.7×116.7 | 個人 | |
| みえない風景 | | | | | | | |
| 2－1 | 猪熊弦一郎 | 戦ひの後(コレヒドール) | 1942 | 油彩・カンヴァス | 111.5×142.2 | 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館 | |
| 2－2 | ソフィ・カル | 《盲目の人々》より (No.3,4,11,13) | 1986 | 写真、テキスト | 可変 | 豊田市美術館 | |
| 2－3 | 中川幸夫 | 魔の山 | 1989 (再制作2001) | 写真 | 250.0×360.0 | 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館 | |
| 2－4 | 大岩オスカール幸男 | エイジアン・ドラゴン | 1995 | アクリル・合板 | 182.0×546.0 | 豊田市美術館 | |
| 2－5 | 小林孝亘 | GATE | 1997-98 | 油彩・カンヴァス | 285.0×400.0 | 広島市現代美術館 | |
| 2－6 | アルフレッド・ジャー | Solitude | 2000 | ライトボックス、カラートランスペアレンシー、ガラス | 160.0×160.0×0.6 (ガラス)<br>36.0 ×157.0×12.7 (ライトボックス) | ケンジタキギャラリー | |
| 2－7 | 野口里佳 | ロケットの丘 ＃4 | 2001 | ライトジェットプリント | 154.4×124.4 (額寸) | 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館 | |
| 2－8 | 会田誠 | 人(hi－to：human being) PROJECT | 2002 | アクリル・カンヴァス，インクジェットプリント・紙 | 197.0×437.0 | 広島市現代美術館 | |
| 2－9 | 高木正勝 | pia flies | 2004 | ヴィデオ・インスタレーション | 可変 | 作家 | 4分11秒 |
| 2－10 | 高木正勝 | light pool | 2004 | ヴィデオ・インスタレーション | 可変 | 作家 | 4分13秒 |
| 2－11 | 高木正勝 | WAVE | 2004 | ヴィデオ・インスタレーション | 可変 | 作家 | 4分24秒 |
| 2－12 | 高木正勝 | bloomy girls | 2005 | ヴィデオ・インスタレーション | 可変 | 作家 | 5分22秒 |
| 2－13 | 小野博 | あそこからでは何も見えない | 2005 | Cプリント、音響装置 | 48.5 ×370.0 | 作家 | 音響制作：佐藤尚美 |
| 2－14 | 藤本由紀夫 | EARS WITH CHAIR (MARUGAME) | 2005 | ミクストメディア | 可変 | 作家 | |

# Ⅲ 美術作品整理・管理

## i 貸出し

| 作品名 | 制作年 | 作者 | 材質 | 貸出先 | 貸出期間 | 展覧会名等 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | 2003年度（平成15年度） |
| カガシの夢 | 1993 | 猪熊弦一郎 | アクリル・カンヴァス | 新潟市美術館・三隅町立香月美術館・芸術の森美術館・高知県立美術館・株式会社大丸梅田店・女子美アートミュージアム | 2003.11.11～2004.10.24 | 「作家からの贈りもの」<br>会期:2003年11月30日～2004年1月18日<br>会場:新潟市美術館<br>会期:2004年1月25日～2004年3月28日<br>会場:三隅町立香月美術館<br>会期:2004年4月4日～2004年5月23日<br>会場:芸術の森美術館<br>会期:2004年5月30日～2004年7月25日<br>会場:高知県立美術館<br>会期:2004年8月18日～2004年8月30日<br>会場:大丸ミュージアム・梅田<br>会期:2004年9月8日～2004年10月18日<br>会場:女子美アートミュージアム |
| Face 80 | 1989 | 猪熊弦一郎 | アクリル・カンヴァス | | | |
| 対話彫刻　110点 | | 猪熊弦一郎 | ミクストメディア | | | |
| | | | | | | 2004年度（平成16年度） |
| 自画像 | 1921 | | 油彩・カンヴァス | 茨城県つくば美術館・川越市立美術館・群馬県立館林美術館・美術館連絡協議会 | 2004.4.17～2004.11.19 | 「生誕100周年記念 猪熊弦一郎回顧展」<br>会期:2004年4月24日～2004年5月23日<br>会場:茨城県つくば美術館<br>会期:2004年7月10日～2004年9月5日<br>会場:川越市立美術館<br>会期:2004年9月18日～2004年11月14日<br>会場:群馬県立館林美術館 |
| 婦人像 | 1926 | | 油彩・カンヴァス | | | |
| 眠れる女 | 1927 | | 油彩・カンヴァス | | | |
| 青衣 | 1930 | | 油彩・カンヴァス | | | |
| 水差しを持てる女 | 1930 | | 油彩・カンヴァス | | | |
| コンポジション | 1930 | | 油彩・カンヴァス | | | |
| パレットを持つ女 | 1931 | | 油彩・カンヴァス | | | |
| 二人 | 1931 | | 油彩・カンヴァス | | | |
| 画室 | 1932 | | 油彩・カンヴァス | | | |
| 灰色の服 | 1933 | | 油彩・カンヴァス | | | |
| 海と女 | 1935 | | 油彩・カンヴァス | | | |
| S君の像 | 1939 | | 油彩・カンヴァス | | | |

| 作　品　名 | 制作年 | 作者 | 材質 | 貸 出 先 | 貸出期間 | 展覧会名等 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | 2004年度（平成16年度） |
| 妻と手袋 | 1939 | | 油彩・カンヴァス | 茨城県つくば美術館・川越市立美術館・群馬県立館林美術館・美術館連絡協議会 | 2004. 4 .17 ～ 2004.11.19 | |
| マドモアゼルM | 1940 | | 油彩・カンヴァス | | | |
| 長江埠の子供達 | 1941 | | 油彩・カンヴァス | | | |
| ダムのある風景 | 1945頃 | | 油彩・カンヴァス | | | |
| バレリーナの夢想 | 1950 | | 油彩・カンヴァス | | | |
| 猫と住む人 | 1952 | | 油彩・カンヴァス | | | |
| 馬と道化 | 1955 | | 油彩・カンヴァス | | | |
| HANIWA 1 | 1956 | | 油彩・カンヴァス | | | |
| Pine Tree 1 | 1956 | | 油彩・カンヴァス | | | |
| Calm | 1956 | | 油彩・カンヴァス | | | |
| 星座 | 1958 | | 油彩・カンヴァス | | | |
| Greeting of Neighborhood | 1962 | | 油彩・カンヴァス | | | |
| The City（Green No. 4） | 1968 | | アクリル・カンヴァス | | | |
| City Planning Yellow No. 1 | 1968 | | アクリル・カンヴァス | | | |
| Two Shores B | 1970 | | アクリル・カンヴァス | | | |
| Landscape BY | 1972 | | アクリル・カンヴァス | | | |
| Rainbow Z | 1976 | | アクリル・カンヴァス | | | |
| 角と丸 BX | 1977 | | アクリル・カンヴァス | | | |
| ピンク 角 | 1977 | | アクリル・カンヴァス | | | |
| 飛び行く力 | 1978 | | アクリル・カンヴァス | | | |
| 夜を飛ぶ | 1980 | | アクリル・カンヴァス | | | |
| 発芽時代 | 1985 | | アクリル・カンヴァス | | | |
| 体操と水 | 1987 | | アクリル・カンヴァス | | | |
| 二つの門 | 1987 | | アクリル・カンヴァス | | | |
| 顔 31 | 1989 | | アクリル・カンヴァス | | | |
| 顔 80 | 1989 | | アクリル・カンヴァス | | | |
| 顔 犬 鳥 | 1991 | | アクリル・カンヴァス | | | |
| 裸子 1　顔13 鳥 2 | 1991 | | アクリル・カンヴァス | | | |
| 鳥 犬 顔 隣人 | 1992 | | アクリル・カンヴァス | | | |
| 或晴れた一日 | 1992 | | アクリル・カンヴァス | | | |
| 風車と鳥 | 1993 | | アクリル・カンヴァス | | | |
| 飛ぶ日のよろこび | 1993 | | アクリル・カンヴァス | | | |
| ダボとカガシ | 1993 | | アクリル・カンヴァス | | | |
| 素描 1 | 不詳 | | 鉛筆・紙 | | | |
| 素描 2 | 不詳 | | 木炭、インク・紙 | | | |
| 素描 3 | 不詳 | | インク・紙 | | | |
| 素描 4 | 不詳 | | 鉛筆・紙 | | | |
| 素描 5 | 不詳 | | 鉛筆・紙 | | | |
| 素描 6 | 不詳 | | 鉛筆・紙 | | | |
| 素描 7 | 不詳 | | 鉛筆・紙 | | | |
| 素描 8 | 不詳 | | 鉛筆・紙 | | | |
| コレクション　20点 | 不詳 | | 鉛筆・紙 | | | |
| ロケットの丘 ＃ 4 | 2001 | 野口里佳 | ライトジェットプリント | 原美術館 | 2004. 4 .14 ～ 2004. 7 .30 | 「飛ぶ夢を見た　野口里佳」<br>会期:2004年 4 月24日～ 2004年 7 月25日<br>会場:原美術館 |
| 暑い日 | 1950 | ｲｻﾑ・ﾉｸﾞﾁ | 陶（瀬戸焼）、木 | Tate Liverpool | 2004. 5 .10 ～ 2004. 9 .11 | 「A Secret History of Clay : From Gouguin to Gormley」<br>会期:2004年 5 月28日～ 2004年 8 月30日<br>会場:Tate Liverpool |

| 作　品　名 | 制作年 | 作者 | 材質 | 貸 出 先 | 貸出期間 | 展覧会名等 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | 2004年度（平成16年度） |
| 真鍮網による椅子<br><br>アケサイドテーブル<br><br>浴衣他 | 1950<br><br>1953<br><br>1955 | 猪熊弦一郎<br><br>猪熊弦一郎<br><br>猪熊弦一郎 | 真鍮網、革、鉄<br><br>アケビ、鉄<br><br>染料、綿 | 秋田市立千秋美術館・京都国立近代美術館・松戸市教育委員会・美術館連絡協議会 | 2004．6．10<br>～<br>2005．3．5 | 「ジャパニーズ・モダン－剣持勇とその世界－」<br>会期:2004年９月４日～<br>2004年10月３日<br>会場:秋田市立千秋美術館<br>会期:2004年10月８日～<br>2004年11月３日<br>会場:京都国立近代美術館<br>会期:2005年１月22日～<br>2005年２月20日<br>会場:松戸市立博物館 |
| 自画像<br><br>支那服の女<br><br>昼<br><br>夜<br>黄昏<br>妻と赤い服<br>猫と食卓 | 1925<br><br>1936<br><br>1937<br><br>1937<br>1937<br>1950<br>1952 | 猪熊弦一郎<br><br>猪熊弦一郎<br><br>猪熊弦一郎<br><br>猪熊弦一郎<br>猪熊弦一郎<br>猪熊弦一郎<br>猪熊弦一郎 | 油彩・カンヴァス<br><br>油彩・カンヴァス<br><br>油彩・カンヴァス<br><br>油彩・カンヴァス<br>油彩・カンヴァス<br>油彩・カンヴァス<br>油彩・カンヴァス | 新見美術館・神戸市立小磯記念美術館 | 2004．7．17<br>～<br>2004．12．2 | 「没後50年内田巌展～猪熊弦一郎・小磯良平とともに～」<br>会期:2004年７月27日～<br>2004年９月26日<br>会場:新見美術館<br>会期:2004年10月２日～<br>2004年11月28日<br>会場:神戸市立小磯記念美術館 |
| 三島由紀夫『仮面の告白』表紙画下絵 | 不詳 | 猪熊弦一郎 | 鉛筆・紙 | 県立神奈川近代文学館・財団法人神奈川文学振興会 | 2005．1．30<br>～<br>2005．6．11 | 「生誕80年・没後35年　三島由紀夫ドラマティックヒストリー」<br>会期:2005年４月23日～<br>2005年６月５日<br>会場:県立神奈川近代文学館 |

# Ⅳ 教育普及事業

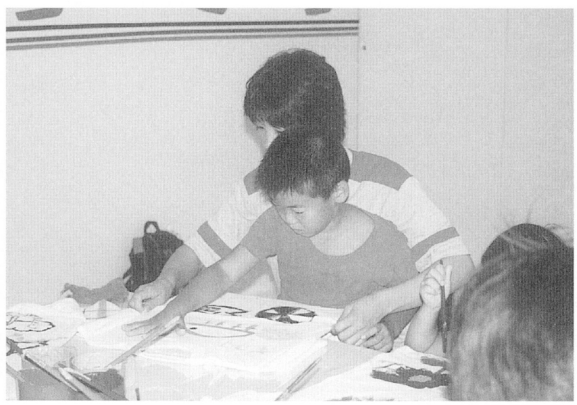
## i ワークショップ

子どもたちの豊かな感性と創造力を伸ばし、育むことを目的として、主に小・中学生を対象にワークショップを開催した。

| ワークショップ名 | 開催日時・会場 | 講師 | 対象 | 人数 | 参加費 | 内容 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 「《ミルク・ストーン》のなぞ」 | 2003.4.12(土)・19(土)<br>10:00～12:00<br>造形スタジオ・3階展示室 | 美術館スタッフ | 小・中学生 | 11人<br>12人 | 無料 | ヴォルフガング・ライブ展関連ワークショップ。代表的な作品《ミルク・ストーン》を子どもの手により完成させ、より深い鑑賞の機会とする。 |
| 「ミュージアム探検隊 Ⅱ」<br>美術館のひみつの部屋」 | 2003.5.10(土)・17(土)<br>10:00～12:00<br>造形スタジオ・美術館内 | 美術館スタッフ | 小・中学生 | 14人<br>16人 | 無料 | 美術館の展覧会をするためには欠かせない隠された部屋を探検し、美術館のしくみを探っていく。 |
| 「ミラクル☆ミラー」 | 2003.6.14(土)<br>10:00～12:00<br>造形スタジオ | 美術館スタッフ | 小・中学生 | 21人 | 無料 | 草間彌生展関連ワークショップ。ふしぎな物体、鏡を使った、ふしぎな体験をする。 |
| 夏休み<br>「ガタピシッ、ロボット!?」 | 2003.7.23(水)～27(日)<br>10:00～12:00<br>13:00～15:00<br>造形スタジオ | 美術館スタッフ | 子どもから一般 | 子ども442人<br>大人26人 | 200円 | 身近にある廃品等で自分の夢をかなえてくれるロボットをつくる。 |
| 夏休み<br>「夏だ!屋台でウチワ!?」 | 2003.8.1(金)～3(日)<br>10:00～12:00<br>13:00～15:00<br>造形スタジオ | 美術館スタッフ | 子どもから一般 | 子ども178人<br>大人42人 | 200円 | 造形スタジオに屋台が出現!素材をいろいろトッピングしてペーパーうちわを作ろう。 |

《ミルク・ストーン》のなぞ
(2003. 4 )

| ワークショップ名 | 開催日時・会場 | 講　師 | 対　象 | 人数 | 参加費 | 内　容 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 夏休み<br>「描いて着る ザ☆Tシャツ」 | 2003.8.8(金)<br>～11(月)<br>10:00～12:00<br>13:00～15:00<br>造形スタジオ | 美術館スタッフ | 子どもから一般 | 子ども<br>354人<br>大人<br>130人 | 300円 | 今年で3回目となるTシャツアート。白いTシャツに色落ちを防ぐ定着剤を混ぜたアクリル絵具で自由に絵を描く。 |
| 「歩く・ひろう・つくる<br>木の実や葉っぱでアートしよう」 | 2003.10.11(土)<br>・18(土)<br>10:00～12:00<br>造形スタジオ<br>・丸亀市内 | 美術館スタッフ | 小・中学生 | 12人<br>13人 | 無料 | 外に出かけ、身のまわりの自然物、木の実や葉っぱを使った作品をつくる。 |
| 「野点－<br>焼立器飲茶美味窯付移動車」 | 2003.10.31(金)<br>・11.1(土)・3(月/祝)<br>お昼すぎから<br>日暮れまで<br>丸亀市内・美術館ゲートプラザ他2ヶ所 | きむらとしろうじんじん<br>(陶芸家) | 子どもから大人まで | 絵付<br>205人<br>茶席<br>127人<br>見学<br>約600人 | 1,000円<br>250円 | 陶芸家きむらとしろうじんじん氏がひくりヤカーで、素焼きに絵付けしお茶を飲む。約1時間。 |
| 「油絵具とアクリル絵具・<br>はじめの一歩」 | 2003.12.13(土)<br>・20(土)<br>10:00～12:00<br>造形スタジオ | 美術館スタッフ | 小・中学生 | 20人<br>20人 | 無料 | 生誕100周年記念猪熊弦一郎回顧展関連ワークショップ。展覧会を鑑賞し、使われている油絵具とアクリル絵具の特質を知り実際に使ってみる。 |
| 「荻先生と一緒に描こう」 | 2004.1.24(土)<br>10:00～12:00<br>造形スタジオ<br>・館内 | 荻　太郎<br>(画家) | 小・中学生 | 21人 | 無料 | 生誕100周年記念猪熊弦一郎回顧展関連ワークショップ。猪熊弦一郎の弟子であった画家荻 太郎さんと美術館の中を歩き、描いてみたいところを見つけてクレヨンで描く。 |
| 「卵えのぐ物語<br>卵で絵具ができるよ」 | 2004.2.21(土)<br>10:00～12:00<br>造形スタジオ | 美術館スタッフ | 小・中学生 | 26人 | 無料 | 土や石を粉にした顔料をもとに卵等を加えた卵テンペラと呼ばれる絵具をつくり絵を描く。 |
| 「ミモカ海底都市200X」 | 2004.3.13(土)<br>・20(土)<br>10:00～12:00<br>造形スタジオ | 美術館スタッフ | 小・中学生 | 23人<br>19人 | 無料 | ダンボール、廃品等を使って、海底にそびえる海底都市をつくる。 |



夏休み「描いて着るザ☆Tシャツ」
(2003. 8 )

| ワークショップ名 | 開催日時・会場 | 講　師 | 対　象 | 人数 | 参加費 | 内　容 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 「マリーナ・<br>アブラモヴィッチへの道」 | 2004.4.11(日)・<br>18(日)<br>13:00～16:00<br>3階展示室・造形スタジオ | 美術館スタッフ | 子どもから<br>一般<br>（2人以上で<br>申し込み） | 5人<br>(小学生2名<br>一般3名)<br>13人<br>(小学生4名<br>一般9名) | 500円 | マリーナ・アブラモヴィッチ展関連ワークショップ。作品《出発のための鏡》の制作体験を通して作家、作品に対しての理解をより深めようとする。 |
| 「変身?!着ぐるみをつくろう」 | 2004.5.8(土)・<br>15(土)<br>10:00～12:00<br>造形スタジオ | 川崎　展子<br>(現代美術作家) | 小・中学生 | 23人<br>22人 | 無料 | 紙を使って、等身大の立体的な着ぐるみをつくり"変身"に挑戦する。 |
| 「ゴミじゃない、鳴らせば楽器!?」 | 2004.6.26(土)<br>10:00～13:00<br>造形スタジオ | 山口　とも<br>(打楽器奏者) | 小・中学生 | 46人 | 無料 | さまざまな身近なモノを使っての楽器をつくり皆で合奏する。 |
| 夏休み<br>「ミモカでオバケ!!」 | 2004.7.28(水)<br>～31(土)<br>10:00～12:00<br>13:00～15:00<br>造形スタジオ | 美術館スタッフ | 子どもから<br>大人まで | 258人<br>(4日間合計) | 100円 | 日本だけでなく、世界中にうごめくお化けの世界をつくってみる。参加者が作ったおばけが会期中造形スタジオにどんどん増えていく。 |
| 夏休み<br>「描いて着る　ザ☆Tシャツ4」 | 2004.8.5(木)<br>～7(土)<br>10:00～12:00<br>13:00～15:00<br>造形スタジオ | 美術館スタッフ | 子どもから<br>大人まで | 393人<br>(3日間合計) | 300円 | 今年で4回目となるTシャツアート。白いTシャツに色落ちを防ぐ定着剤を混ぜたアクリル絵具で自由に絵を描く。 |
| 夏休み<br>「ハローウッディワールド!?」 | 2004.8.11(水)<br>～14(土)<br>10:00～12:30<br>13:30～16:00<br>造形スタジオ | 美術館スタッフ | 子どもから<br>大人まで | 275人<br>(4日間合計) | 200円 | 自然物である木の持つ造形的なおもしろさ、ぬくもりを生かして家や動物、オブジェなどをつくる。 |
| 『老い』を試みる<br>－老童男女の写真館 | 2004.8.21(土)<br>10:00～15:00<br>造形スタジオ | やなぎみわ<br>(展覧会出品作家) | 小5～高校生 | 11人 | 無料 | やなぎみわ展関連ワークショップ。身体の一部分、顔や手・足などをいろいろな方法でエイジングして何十年後かの年取った自分の姿(一部)に変身する。 |

マリーナ・アブラモビッチへの道
（2004. 4）

ゴミじゃない、鳴らせば楽器!?
（2004. 6）

| ワークショップ名 | 開催日時・会場 | 講　師 | 対　象 | 人数 | 参加費 | 内　容 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 「できるかな2004」 | 2004.9.25(土)・26(日)<br>13:00～15:00<br>造形スタジオ | 小沢　剛<br>(現代美術作家) | 小4～中学生 | 9人<br>8人 | 無料 | うその自己紹介をもとにつくった帽子をかぶり、壁に貼られた新聞にダーツの矢を投げる。あてた言葉を即興的に表現する。 |
| 「コルクでポンッ!」 | 2004.10.9(土)・16(土)<br>10:00～12:00<br>造形スタジオ | 美術館スタッフ | 小・中学生 | 19人<br>16人 | 無料 | ワイン・コルクに針金やくぎ、ねじなどの材料でコルク人形等をつくる。 |
| 「ハットしてグッド!!」 | 2004.11.13(土)・20(土)<br>10:00～12:00<br>造形スタジオ | 美術館スタッフ | 小・中学生 | 23人<br>24人 | 無料 | 見たことのない、おもしろいオリジナルの帽子をつくる。 |
| 「ベリーないす2」 | 2004.12.11(土)・12(日)<br>10:00～12:00<br>造形スタジオ | 中村　哲也<br>(現代美術作家) | 小・中学生 | 20人<br>20人 | 無料 | ダンボールを使って、いすをつくる活動。1日目は中村哲也さんが図面をひいたイスのパーツを組み立て、2日目はそのイスに色をぬったり、飾りをつけてカスタマイズ。 |
| 「光でらくがきしよう!」 | 2005.1.8(土)<br>10:00～12:30<br>2階ミュージアムホール・造形スタジオ | 美術館スタッフ | 小3～中学生 | 16人 | 無料 | ペンライトで空間に絵を描く。その様子をカメラで撮影。 |
| 「たてもの探検隊<br>～いのくま美術館へいく!～」 | 2005.2.12(土)・19(土)<br>10:00～12:00<br>造形スタジオ | 美術館スタッフ | 小・中学生 | 6人<br>6人 | 無料 | クイズに答えながら、たてものとしての美術館を探検する。 |
| 「石こうでつくるコワーイ森」 | 2005.3.19(土)・26(土)<br>10:00～12:00<br>造形スタジオ | 美術館スタッフ | 小・中学生 | 18人<br>17人 | 無料 | 1日目は、全員で森のイメージをふくらませ木片・新聞などで木や森にいそうないきものの骨組みをつくる。2日目はそれに石こうをつけたり蛍光カラーをぬり最後にブラックライトで照らしてコワーイ森に仕上げる。 |

ハットしてグッド!!
(2004.11)

# Ⅳ 教育普及事業

## ii オープン・スタジオ

オープン・スタジオ『美術館であそぼう』
《絵具で自由に絵を描く・土粘土で遊ぶ活動》
時　間／10時～11時30分
対　象／子ども・保護者
参加料／無料
会　場／造形スタジオ
申込不要

| 開催日 | 人数 | | 計 |
|---|---|---|---|
| | 子ども | 保護者 | |
| 2003年４月５日 | 56人 | 37人 | 93人 |
| 2003年５月３日 | 58人 | 51人 | 109人 |
| 2003年６月７日 | 52人 | 35人 | 87人 |
| 2003年７月５日 | 43人 | 28人 | 71人 |
| 2003年９月６日 | 52人 | 31人 | 83人 |
| 2003年10月４日 | 39人 | 22人 | 61人 |
| 2003年12月６日 | 38人 | 26人 | 64人 |
| 2004年１月３日 | ４人 | ５人 | ９人 |
| 2004年２月７日 | 32人 | 18人 | 50人 |
| 2004年３月６日 | 61人 | 37人 | 98人 |
| 2004年４月３日 | 26人 | 19人 | 45人 |
| 2004年５月１日 | 50人 | 37人 | 87人 |
| 2004年７月３日 | 64人 | 51人 | 115人 |
| 2004年９月４日 | 45人 | 37人 | 82人 |
| 2004年10月２日 | 33人 | 22人 | 55人 |
| 2004年12月４日 | 31人 | 20人 | 51人 |
| 2005年２月５日 | 22人 | 35人 | 57人 |
| 2005年３月５日 | 33人 | 20人 | 53人 |
| 計 | 739人 | 531人 | 1270人 |

# Ⅳ 教育普及事業

## iii コンサート・文化講演会

### 弦が奏でるアラブとアンダルシア　ウード＆フラメンコ・ギター

日　　時　2003年５月18日（日）　15時開演／16時終演　　入場者数　634人
会　　場　１階ゲートプラザ
入 場 料　無料
主　　催　財団法人ミモカ美術振興財団、丸亀市国際交流協会、丸亀お城まつり協賛会
出 演 者　常味裕司（ウード）、高木潤一（フラメンコ・ギター）

### 昼下がりのブラジル音楽

日　　時　2004年５月16日（日）　15時開演／16時20分終演　　入場者数　422人
会　　場　２階ミュージアムホール
企画協力　ちゃいぶ28
入 場 料　無料
主　　催　財団法人ミモカ美術振興財団、丸亀市国際交流協会、丸亀お城まつり協賛会
出 演 者　高尾典江（ヴォーカル、ギター）、荒玉哲郎（ベース）、竹田達彦（ドラム）
　　中島徹（ピアノ、トロンボーン）

### 53 わねわね音楽会

日　　時　2004年６月27日（日）　14時開演／15時30分終演　　入場者数　193人
会　　場　２階ミュージアムホール
入 場 料　一般／前売3,000円、当日3,500円（全席自由）　高校生以下／1,000円
主　　催　丸亀市猪熊弦一郎現代美術館、財団法人ミモカ美術振興財団
出 演 者　山口とも（なにやらたたくひと）、黒田京子（ぴあのをかなでるひと）
　　おおたか静流（うたうたうひと）

### 54 タチヤーナ・ヴァシリエヴァ　チェロ・コンサート

日　　時　2004年６月27日（日）　14時開演／15時30分終演　　入場者数　185人
会　　場　２階ミュージアムホール
入 場 料　一般／前売3,000円、当日3,500円（全席自由）
主　　催　丸亀市猪熊弦一郎現代美術館、財団法人ミモカ美術振興財団
　　丸亀文化祭実行委員会
助　　成　財団法人よんでん文化振興財団
出 演 者　タチヤーナ・ヴァシリエヴァ（チェロ）

## MIMOCA 現代芸術入門講座 vol. 4 － 1

日　　時　2003年８月17日（日）　15時～17時30分　　受講者数　178人
講　　師　ヤノベケンジ（美術家）
会　　場　２階ミュージアムホール
受 講 料　500円（高校生以下・MF・当日の展覧会チケットをお持ちの方は無料）
主　　催　丸亀市猪熊弦一郎現代美術館、財団法人ミモカ美術振興財団

## MIMOCA 現代芸術入門講座 vol. 5 － 1

日　　時　2004年８月１日（日）　15時～17時　　受講者数　44人
テ ー マ　美術館の「愛」と「正義」を考える
講　　師　岩渕潤子（静岡文化芸術大学文化政策学部文化学科助教授）
会　　場　２階ミュージアムホール
受 講 料　500円（高校生以下・MF・当日の展覧会チケットをお持ちの方は無料）
主　　催　丸亀市猪熊弦一郎現代美術館、財団法人ミモカ美術振興財団

## MIMOCA 現代芸術入門講座 vol. 5 － 2

日　　時　2004年８月８日（日）　15時～16時45分　　受講者数　68人
テ ー マ　美術館が仕掛けるまちづくりとは？～現代芸術と市民参加
講　　師　熊倉純子（東京芸術大学音楽学部音楽環境創造科助教授）
会　　場　２階ミュージアムホール
受 講 料　500円（高校生以下・MF・当日の展覧会チケットをお持ちの方は無料）
主　　催　丸亀市猪熊弦一郎現代美術館、財団法人ミモカ美術振興財団

## MIMOCA 現代芸術入門講座 vol. 5 － 3

日　　時　2004年８月15日（日）　15時～16時30分　　受講者数　62人
テ ー マ　丸亀市猪熊弦一郎現代美術館の「これまで」と「これから」
講　　師　白川洋二（丸亀市猪熊弦一郎現代美術館副館長）
会　　場　２階ミュージアムホール
受 講 料　500円（高校生以下・MF・当日の展覧会チケットをお持ちの方は無料）
主　　催　丸亀市猪熊弦一郎現代美術館、財団法人ミモカ美術振興財団

## MIMOCA 現代芸術入門講座 vol. 5 － 4

日　　時　2004年８月29日（日）　15時～16時25分　　受講者数　88人
テ ー マ　美術館とは何かーその歴史と役割
講　　師　高階秀爾（大原美術館館長／東京大学名誉教授／財団法人ミモカ美術振興財団相談役）
会　　場　２階ミュージアムホール
受 講 料　500円（高校生以下・MF・当日の展覧会チケットをお持ちの方は無料）
主　　催　丸亀市猪熊弦一郎現代美術館、財団法人ミモカ美術振興財団

## 上映会　ワー！マイキーリターンズ

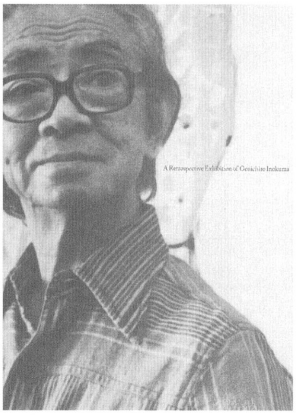
日　　時　2004年９月18日（土）～26日（日）　　入場者数　874人
会　　場　２階ミュージアムホール
主　　催　丸亀市猪熊弦一郎現代美術館、財団法人ミモカ美術振興財団

# Ⅳ 教育普及事業

## ⅳ 刊行物一覧

### ⅳ－ⅰ 当館発行刊行物

**2003年**
（平成15年11月）

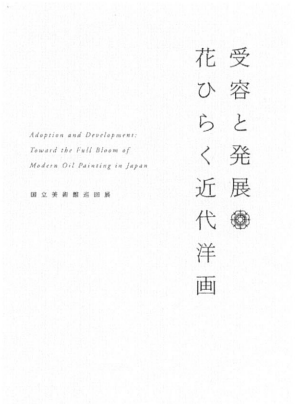



**生誕100周年記念　猪熊弦一郎回顧展**

| | |
|---|---|
| 内　　容 | ごあいさつ／木島俊介「猪熊弦一郎とニューヨーク」／ジョージ・R・エリス「小さな三角の石で部屋をうずめるとき」／安藤輝美「猪熊弦一郎《海と女》の頃」／カタログ／年譜／文献一覧／展覧会歴／作品リスト |
| 監　　修 | 木島俊介 |
| 編　　集 | 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館、財団法人ミモカ美術振興財団 |
| 翻　　訳 | マーサ・マクリントク、高橋芽香子 |
| 仕　　様 | Ａ４　148ページ |
| デ ザ イ ン | 桑畑吉伸 |
| 制　　作 | アイメックス・ファインアート |
| 印　　刷 | アイメックス・ファインアート |
| 発　　行 | 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館、財団法人ミモカ美術振興財団、読売新聞社、美術館連絡協議会 |
| 発 行 部 数 | 4,100部 |
| 価　　格 | 2,000円 |

---

**2004年**
（平成16年２月）




**国立美術館巡回展　受容と発展：花ひらく近代洋画**

| | |
|---|---|
| 内　　容 | ごあいさつ／中林和雄「洋画」と今日／図版／作家・作品解説／関連年表／出品目録 |
| 編　　集 | 東京国立近代美術館、丸亀市猪熊弦一郎現代美術館、財団法人ミモカ美術振興財団 |
| 仕　　様 | Ｂ５変型　88ページ |
| レ イ ア ウ ト | 文京図案室 |
| 印　　刷 | 平和写真印刷株式会社 |
| 発　　行 | 東京国立近代美術館、丸亀市猪熊弦一郎現代美術館、財団法人ミモカ美術振興財団 |
| 発 行 部 数 | 700部 |
| 価　　格 | 1,700円 |

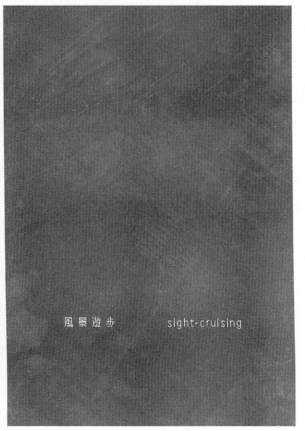
**2004年**
（平成16年７月）

**やなぎみわ〔少女地獄極楽老女〕**

内　　容　ごあいさつ／謝辞／野村雅一「少女と老女－願望の合わせ鏡」／鷲田精一×やなぎみわ／植松由佳「やなぎみわ：自分探しの旅」／カタログ／やなぎみわへの質問状／出品作品リスト／略歴
編　　集　植松由佳、松村円
翻　　訳　山川純子、吉竹美香、Brian Amstutz、Lynne E. Riggs
仕　　様　Ａ４変型　135ページ
デ ザ イ ン　木村三晴
印　　刷　平和写真印刷株式会社
発　　行　丸亀市猪熊弦一郎現代美術館、財団法人ミモカ美術振興財団
発行部数　2,000部
価　　格　2,500円

---

**2005年**
（平成17年３月）

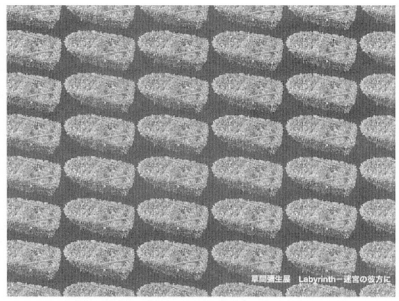



**風景遊歩　sight-cruising**

内　　容　あいさつ／謝辞／松村円「あたらしい風景－その先へとみちびくもの－」／中田耕市「みえない風景－見えることと見えないこと－」／参考文献／作品図版／出品作家略歴
編　　集　中田耕市、松村円
翻　　訳　松浦直美
仕　　様　Ａ４　80ページ
アートディレクション＆デザイン　菊地敦己
プリンティング・ディレクション　落合崇
印　　刷　グラフ株式会社
発　　行　丸亀市猪熊弦一郎現代美術館、財団法人ミモカ美術振興財団
発行部数　1,500部
価　　格　2,300円

## iv ― ii　その他関連刊行物

**2003年**
（平成15年６月）

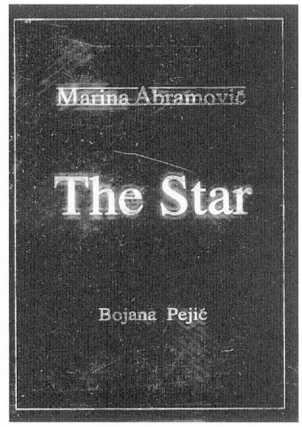



**草間彌生展　Labyrinth-迷宮の彼方に**

内　　容　植松由佳「草間彌生の生と死のオブセッション」／図版／出品目録／草間彌生／展覧会歴／著作目録／作品所蔵先
編　　集　植松由佳、草間彌生スタジオ、株式会社アートプランニング レイ
翻　　訳　川島ロイス、後町幸枝
仕　　様　Ｂ５変型　127ページ
制　　作　印象社
発　　行　株式会社アートプランニング レイ
価　　格　1,800円

---

**2003年**
（平成15年11月）




**マリーナ・アブラモヴィッチ　－The Star－**

内　　容　ごあいさつ／Essays by Bojana Pejić／作品図版／略年譜／作品リスト／主要参考文献／南嶌宏「Two Stars : Girls from Belgrade－小さな奇跡の始まりに」／ボヤーナ・ペイジによるエッセイ／謝辞
編　　集　「マリーナ・アブラモヴィッチ　－The Star」展実行委員会、南嶌宏、本田代志子、金澤韻（熊本市現代美術館）
翻　　訳　本田代志子、金澤韻、冨澤治子、坂本顕子（熊本市現代美術館）、植松由佳、中田耕市（丸亀市猪熊弦一郎現代美術館／財団法人ミモカ美術振興財団）
仕　　様　Ｂ５変型　192ページ
デ ザ イ ン　恒成貴子
印　　刷　シモダ印刷株式会社
発　　行　「マリーナ・アブラモヴィッチ　－The Star」展実行委員会
価　　格　1,200円

# Ⅳ 教育普及事業

## v 美術図書室利用状況

**2003年度**（平成15年度）

| 月 | 入室者 | 累計 | 日数 | 平均 |
|---|---|---|---|---|
| 2003年 4月 | 283 | 283 | 30 | 9.4 |
| 5月 | 318 | 601 | 31 | 10.3 |
| 6月 | 220 | 821 | 24 | 9.2 |
| 7月 | 222 | 1,043 | 31 | 7.2 |
| 8月 | 426 | 1,469 | 31 | 13.7 |
| 9月 | 304 | 1,773 | 25 | 12.2 |
| 10月 | 208 | 1,981 | 31 | 3.7 |
| 11月 | 248 | 2,229 | 24 | 10.3 |
| 12月 | 178 | 2,407 | 24 | 7.4 |
| 2004年 1月 | 256 | 2,663 | 31 | 8.3 |
| 2月 | 238 | 2,901 | 24 | 9.9 |
| 3月 | 312 | 3,213 | 26 | 12.0 |

332日 3,213人（平均 9.7人）

**2004年度**（平成16年度）

| 月 | 入室者 | 累計 | 日数 | 平均 |
|---|---|---|---|---|
| 2004年 4月 | 194 | 194 | 30 | 6.5 |
| 5月 | 324 | 518 | 30 | 10.8 |
| 6月 | 151 | 669 | 25 | 6.0 |
| 7月 | 235 | 904 | 26 | 9.0 |
| 8月 | 538 | 1,442 | 31 | 17.4 |
| 9月 | 286 | 1,728 | 25 | 11.4 |
| 10月 | 207 | 1,935 | 31 | 6.7 |
| 11月 | 187 | 2,122 | 21 | 8.9 |
| 12月 | 209 | 2,331 | 24 | 8.7 |
| 2005年 1月 | 308 | 2,639 | 26 | 11.8 |
| 2月 | 204 | 2,843 | 28 | 7.3 |
| 3月 | 327 | 3,170 | 25 | 13.1 |

322日 3,170人（平均 9.8人）

# Ⅳ　教育普及事業

## vi　ミモカフレンド

美術館で開催する展覧会、講演会などの事業を通して、猪熊芸術及び内外の現代美術に親しむ事を目的として1995年４月に発足した。なお、名称については、生前猪熊が考案したものである。

会員期間　２年間
　2002年４月１日～2004年３月31日
　2004年４月１日～2006年３月31日
会員数
　2002・2003年度会員　378名
　2004・2005年度会員　325名（2005年３月31日現在）
主な特典
　展覧会の割引（2003年度まで２割引、2004年度より３割引とする）
　美術館情報のお届けなど

### ●主な活動内容

**第11回美術鑑賞旅行**

2003年８月24日（日）
アサヒビール大山崎山荘美術館「ガーデン／山荘の時間」
国立国際美術館「ヤノベケンジ－MEGALOMANIA－」
参加者42人

**第12回美術鑑賞旅行**

2004年７月18日（日）
高知県立美術館　「作家からの贈りもの
　　アーティストの作ったおもちゃたち」
北川村「モネの庭」マルモッタン
参加者39人

高知県立美術館にて

**ミモカフレンド鑑賞会**

2004年１月17日（土）
「生誕100周年記念　猪熊弦一郎回顧展」
　担当学芸員によるギャラリートーク
参加者６人

2004年２月29日（日）
「国立美術館巡回展　受容と発展：花ひらく近代洋画」
　担当学芸員によるギャラリートーク
参加者８人

2004年５月８日（土）
「マリーナ・アブラモヴィッチ　－The Star－」
　担当学芸員によるトワイライト・ギャラリートーク
参加者６人

2004年６月12日（土）
「猪熊弦一郎展　ニューヨークからの発信」
　担当学芸員によるギャラリートーク
参加者８人

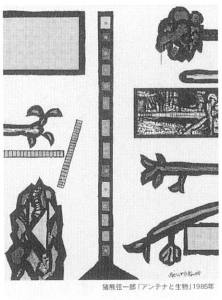
2004年10月16日(土)
「猪熊弦一郎展　遊泳する形」
　担当学芸員によるギャラリートーク
参加者４人

2004年12月４日(土)
「ジャパニーズ・モダン－剣持勇とその世界」
　担当学芸員によるギャラリートーク
参加者６人

2005年２月５日(土)
「猪熊弦一郎展　人物像にみる表現」
　担当学芸員によるギャラリートーク
参加者５人

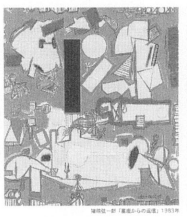
# Ⅳ　教育普及事業

## vii　ミモカキッズパスポート



ミモカ キッズ パスポート

ミモカ キッズ パスポート



猪熊弦一郎は子どもたちとその作品を心から愛して止まなかった。美しいものや、楽しいものをたくさん見てもらうことで、感性豊かな人間に成長して欲しいと願っていた。そこで作品に触れる機会をより多く持ってもらうため、当館では平成８年５月より高校生以下は入館無料としている。さらに高校生以下は無料で観覧できることを広く周知し、また美術館及び猪熊弦一郎に接する機会を増してもらい、芸術に親しむ心を育むため、平成11年７月よりパスポートを発行、配布している。

期間　　毎年７月１日から１年間有効

対象　　市内保育所、幼稚園年長児
市内小中学生全員
高校生以下の来館者で希望した人

来館時にパスポートを提示するとスタンプが押印され、１年間に９回スタンプが押されると対話彫刻キット（オブジェを作成する材料キット）か、ポストカードを渡す。

### ミモカ キッズ パスポート年間利用者数

### 2003年４月～2005年３月

### 2003年度

| | | 幼･保 | 小学生 | 中学生 | 高校生 | 小 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| ヴォルフガング･ライプ展　Durchgang-Übergang | 4／1～6／15 | 9 | 8 | 21 | 4 | 42 |
| 草間彌生展　Labyrinth－迷宮の彼方に | 6／29～9／7 | 29 | 164 | 82 | 3 | 278 |
| イン／プリント－ブリティッシュ･アートの新たなヴィジョン－ | 9／13～11／16 | 5 | 99 | 32 | 17 | 153 |
| 生誕100周年記念　猪熊弦一郎回顧展 | 11／23～04／2／8 | 12 | 146 | 87 | 0 | 245 |
| 国立美術館巡回展　受容と発展：花ひらく近代洋画 | 2／14～3／14 | 19 | 45 | 45 | 4 | 113 |
| マリーナ・アブラモヴィッチ　－The Star－ | 2／20～3／31 | 0 | 17 | 15 | 3 | 35 |
| | 計 | 74 | 479 | 282 | 31 | 866 |

### 2004年度

| | | 幼･保 | 小学生 | 中学生 | 高校生 | 小 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| マリーナ・アブラモヴィッチ　－The Star－ | 4／1～5／30 | 7 | 49 | 12 | 3 | 71 |
| 猪熊弦一郎展　ニューヨークからの発信 | 6／6～7／19 | 1 | 101 | 24 | 0 | 126 |
| やなぎみわ〔少女地獄極楽老女〕 | 7／25～9／12 | 6 | 161 | 85 | 2 | 254 |
| 猪熊弦一郎展　遊泳する形 | 9／18～11／3 | 146 | 163 | 201 | 0 | 510 |
| ジャパニーズ・モダン－剣持勇とその世界 | 11／13～05／1／16 | 2 | 51 | 9 | 0 | 62 |
| 猪熊弦一郎展　人物像にみる表現 | 1／22～3／6 | 16 | 28 | 12 | 0 | 56 |
| 風景遊歩　sight-cruising | 3／13～3／31 | 0 | 27 | 3 | 1 | 31 |
| | 計 | 178 | 580 | 346 | 6 | 1110 |

# Ⅳ 教育普及事業

## viii 市内教職員対象解説会

| 展　覧　会　名 | 開催日 | 時間 | 保育所 | 幼稚園 | 小学校 | 中学校 | その他 | 小計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 生誕100周年記念　猪熊弦一郎回顧展 | 2003.12.13(土) | 15時～ | 0 | 0 | 4 | 1 | 0 | 5 |
| 国立美術館巡回展<br>受容と発展：花ひらく近代洋画 | 2004. 2 .19(木) | 16時～ | 1 | 2 | 8 | 3 | 0 | 14 |
| マリーナ・アブラモヴィッチ<br>－The Star－ | 2004. 3 .25(木) | 16時～ | 0 | 0 | 2 | 0 | 0 | 2 |
| 猪熊弦一郎展<br>ニューヨークからの発信 | 2004. 6 .16(水) | 17時15分～ | 4 | 0 | 9 | 0 | 0 | 13 |
| 猪熊弦一郎展　遊泳する形 | 2004. 9 .30(木) | 16時30分～ | 1 | 0 | 5 | 0 | 0 | 6 |
| ジャパニーズ・モダン－剣持勇とその世界 | 2004.11.25(木) | 16時30分～ | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 1 |
| 猪熊弦一郎展　人物像にみる表現 | 2005. 1 .21(金) | 16時30分～ | 0 | 0 | 16 | 1 | 0 | 17 |
| 風景遊歩　sight-cruising | 2005. 3 .23(水) | 16時20分～ | 2 | 0 | 1 | 0 | 0 | 3 |
| | | 計 | 8 | 2 | 46 | 5 | 0 | 61 |

# V その他事業

## i ミュージアムショップ

ミュージアムショップは１階エントランスホールに設けられている。商品は全てオリジナルであり、開館当初猪熊弦一郎自らグッズ製作に携わった。猪熊の『街では売ってないもの、美術館だからあるもの』を提供するという姿勢を受け継ぎ、作品をもとにした商品を新しく開発している。

2003年度は猪熊の生誕100周年を記念して５つの新商品を開発した。2004年度には、美術館ゲートプラザの巨大壁画『創造の広場』（1991年）をモチーフとした便箋と封筒を発売、好評を得た。

2003年度「生誕100周年記念　猪熊弦一郎回顧展」記念商品

**１．いのくまミニバッグ　２種**

透明ビニールに猪熊作品《体操と水》（1987年）と《手フィンガーブラック》（1989年）をそれぞれプリントした小型のバッグ。持ち手と本体がひとつづきになったデザイン。

価格　1,365円（税込）

サイズ　200×360×50㎜

各1,000個限定

いのくまミニバッグ
左:手 フィンガーブラック
右:体操と水
価格　1,365円(税込)

**２．書籍「私の履歴書　猪熊弦一郎」**

1979年１月、日本経済新聞連載記事を単行本化。猪熊が自らの文章により半生を綴ったもの。

価格　780円（税込）

Ａ５版　全135頁

### 3．いのくまＴシャツ『ダボとカガシ』

黒地の半袖Ｔシャツの前面に、猪熊作品《ダボとカガシ》（1993年）を、縦34㎝×横27㎝と大きくプリント。生地は着心地の良い薄手の天竺綿を使用。

価格　3,780円（税込）

サイズ　S・M・L

素材　綿100％

価格　3,780円（税込）
サイズ　S・M・L
素材　綿100％

いのくまＴシャツ
『ダボとカガシ』

### 4．いのくま長袖Ｔシャツ

他館所蔵の猪熊作品《緑陰》（1946年、高松市美術館蔵）と《六つの顔》（1950年、香川県文化会館蔵）を長袖Ｔシャツにプリント。サイズはそれぞれ作品に合わせ、『緑陰』は女性らしい細身のシルエットに、ポップな印象の『六つの顔』はカジュアルな大きめサイズとした。

価格　3,990円（税込）

サイズ　《緑陰》着丈66㎝、身巾49㎝、袖丈56㎝
　　《六つの顔》着丈72㎝、身巾55㎝、袖丈58㎝

素材　綿100％

いのくま長袖Ｔシャツ
『緑陰』

いのくま長袖Ｔシャツ
『六つの顔』

### 5．ハートのリング

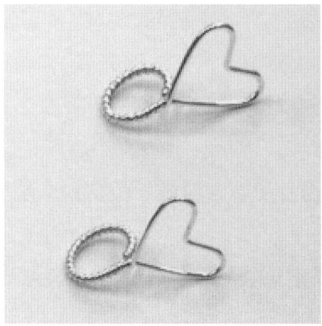
猪熊手作りの指輪をベースにデザインしたオリジナルアクセサリー。針金をねじりあわせたリング部分から大きなハートが立ち上がる大胆なシェイプ。リング部分に切れ目があり若干のサイズ調整が可能。

価格　Small　8,400円、Large　10,500円（税込）

サイズ　Small　7～11号、Large　11～15号

素材　STERLING SILVER 925/1000

各100個限定



上：Large サイズ
下：Small サイズ

価格　Small　8,400円（税込）
　　Large　10,500円（税込）
サイズ　Small　7～11号
　　Large　11～15号
素材　STERLING SILVER 925/1000

ハートのリング

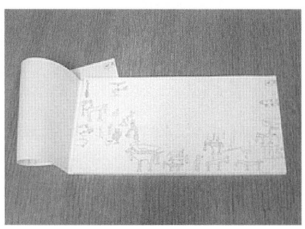
2004年度　便箋と封筒

### 1．便箋

価格　315円（税込）

サイズ　11.5×22㎝

50枚綴り



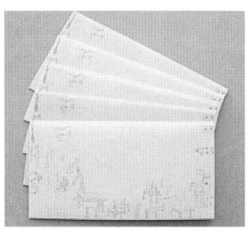
便箋
価格　315円（税込）

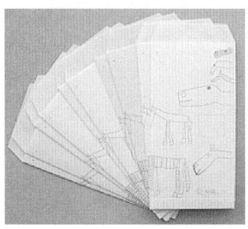
### 2．封筒

価格　420円（税込）

サイズ　洋形０号、長形３号

１セット10枚入り（５色各２枚）





封筒
上：洋形０号
下：長形３号
価格　420円（税込）

# V その他事業

## ii カフェ

カフェレスト・ミモカは、2006年３月まで財団法人ミモカ美術振興財団の直営であったが、2006年４月より株式会社ブルーマークに営業委託することとなった。1998年から始まった展覧会毎の特別メニューは引き続き提供され、来館者の好評を博している。

2003年度

葡萄のムース
（草間彌生展　Labyrinth－迷宮の彼方に）

ナッツのタルト
（イン／プリント
－ブリティッシュ・アートの新たなヴィジョン－）

ブラックチェリーのタルト
（生誕100周年記念　猪熊弦一郎回顧展）

スィートポテト　プディング風
（国立美術館巡回展　受容と発展：花ひらく近代洋画）

ココナッツミルクのブランマンジェ＜星のしずく＞
（マリーナ・アブラモヴィッチ　－The Star－）

2004年度

ポピーシードケーキとレモンカード
（猪熊弦一郎展　ニューヨークからの発信）

Jerry in desert＜砂漠の中のゼリー＞
（やなぎみわ〔少女地獄極楽老女〕展）

ココナッツ　バナナ　プディング
（猪熊弦一郎展　遊泳する形）

フィナンシェ
（ジャパニーズ・モダン－剣持勇とその世界）

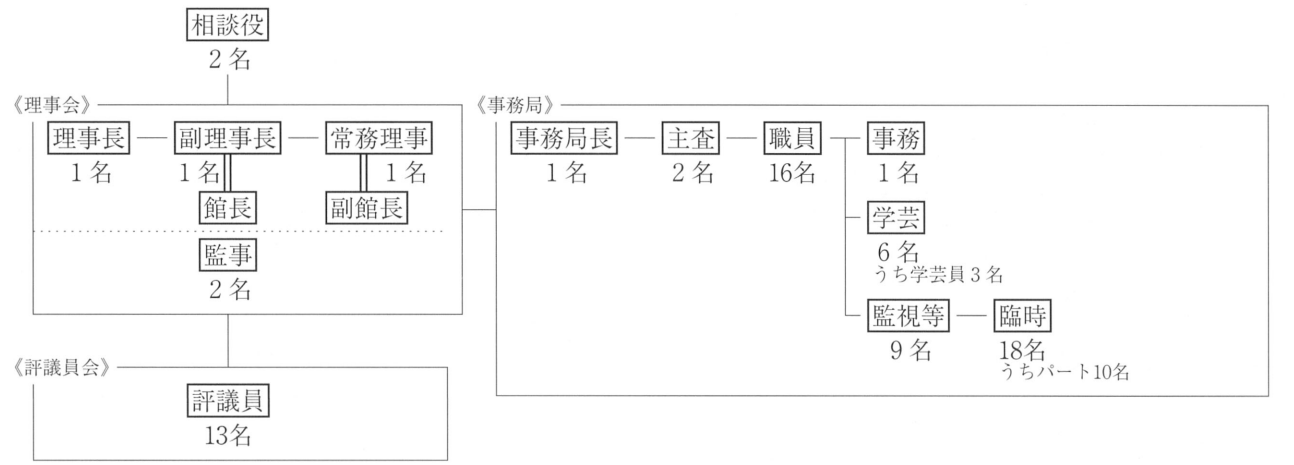
カルピスとヨーグルトのムース
（風景遊歩　sight-cruising）

# VI 入館者状況

| 会　　期 | 展　覧　会　名 | 日数(日) | 入場者数(人) | 平均(/日) |
|---|---|---|---|---|
| | | | | 2003年度（平成15年度） |
| 2003年４月１日～2003年６月15日 | ヴォルフガング・ライプ展 | ７６ | ８,９３６ | １１８ |
| 2003年６月29日～2003年９月７日 | 草間彌生展　Labyrinth－迷宮の彼方に | ７１ | １３,８２１ | １９５ |
| 2003年９月13日～2003年11月16日 | イン／プリント－ブリティッシュ・アートの新たなヴィジョン－ | ６５ | ７,９４５ | １２２ |
| 2003年11月23日～2004年２月８日 | 生誕100周年記念　猪熊弦一郎回顧展 | ７１ | １０,３４４ | １４６ |
| 2004年２月14日～2004年３月14日 | 国立美術館巡回展　受容と発展：花ひらく近代洋画 | ３０ | ５,５８８ | １８６ |
| 2004年３月20日～2004年３月31日 | マリーナ・アブラモヴィッチ－The Star－ | １２ | １,３８９ | １１６ |
| 企画展計 | | | ４８,０２３ | |
| 2003年４月１日～2003年６月22日 | 常設展Ⅰ | ８３ | ９,３４１ | １１３ |
| 2003年６月29日～2003年９月７日 | 常設展Ⅱ | ７１ | １３,９８０ | １９７ |
| 2003年９月13日～2003年11月16日 | 常設展Ⅲ | ６５ | ８,１０１ | １２５ |
| 2003年11月23日～2004年２月８日 | 常設展Ⅳ | ７１ | １０,３４８ | １４６ |
| 2004年２月14日～2004年３月14日 | 常設展Ⅴ | ３０ | ５,６２８ | １８８ |
| 2004年３月20日～2004年３月31日 | 常設展Ⅵ | １２ | １,４１６ | １１８ |
| 常設展計 | | | ４８,８１４ | |
| | | | 計９６,８３７<br>（累計 1,300,627） | |
| | | | | 2004年度（平成16年度） |
| 2004年４月１日～2004年５月30日 | マリーナ・アブラモヴィッチ－The Star－ | ６０ | ６,３２５ | １０５ |
| 2004年６月６日～2004年７月19日 | 猪熊弦一郎展　ニューヨークからの発信 | ４４ | ３,５１８ | ８０ |
| 2004年７月25日～2004年９月12日 | やなぎみわ〔少女地獄極楽老女〕 | ５０ | ８,７５６ | １７５ |
| 2004年９月18日～2004年11月３日 | 猪熊弦一郎展　遊泳する形 | ４７ | ５,０３３ | １０７ |
| 2004年11月13日～2005年１月16日 | ジャパニーズ・モダン－剣持勇とその世界 | ５８ | ６,８９０ | １１９ |
| 2005年１月22日～2005年３月６日 | 猪熊弦一郎展　人物像にみる表現 | ４４ | ３,２０６ | ７３ |
| 2005年３月13日～2005年３月31日 | 風景遊歩　sight-cruising | １９ | １,６０２ | ８４ |
| 企画展計 | | | ３５,３３０ | |
| 2004年４月１日～2004年５月30日 | 常設展Ⅰ | ６０ | ６,５５２ | １０９ |
| 2004年６月６日～2004年７月19日 | 常設展Ⅱ | ４４ | ３,５２１ | ８０ |
| 2004年７月25日～2004年９月12日 | 常設展Ⅲ | ５０ | ８,９６４ | １７９ |
| 2004年９月18日～2004年11月３日 | 常設展Ⅳ | ４７ | ５,０５７ | １０８ |
| 2004年11月13日～2005年１月16日 | 常設展Ⅴ | ５８ | ６,９９９ | １２１ |
| 2005年１月22日～2005年３月６日 | 常設展Ⅵ | ４４ | ３,２２７ | ７３ |
| 2005年３月13日～2005年３月31日 | 常設展Ⅶ | １９ | １,６４４ | ８７ |
| 常設展計 | | | ３５,９６４ | |
| | | | 計７１,２９４<br>（累計 1,371,921） | |

# Ⅶ 組織図

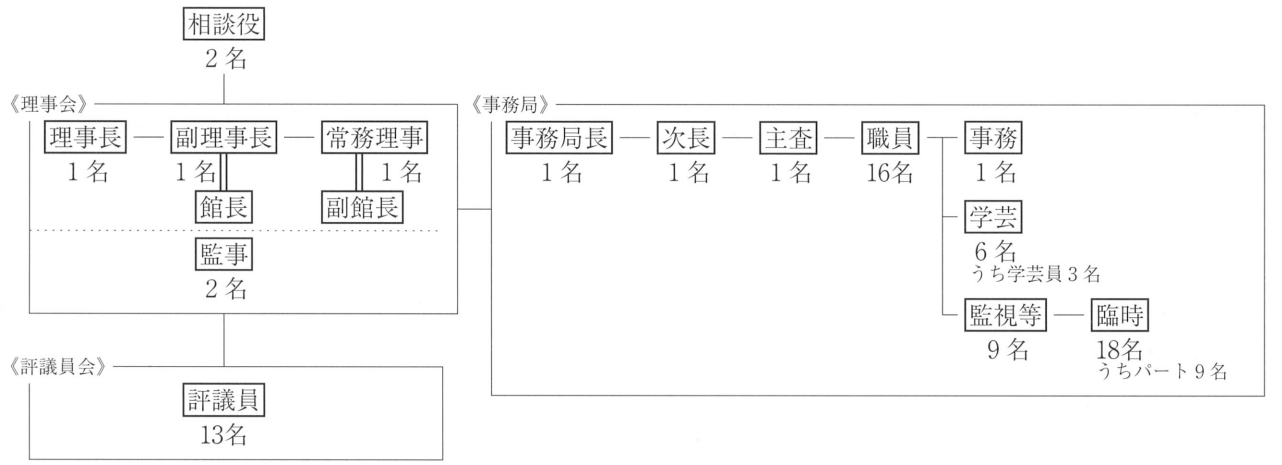
**2003年度**（平成15年度）




| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 相談役 | 高階　秀爾 | 大原美術館館長 | 荒井　茂雄 | 新制作協会会員 |
| 理　事 | 片山　圭之 | 丸亀市市長（理事長） | 河野　虎雄 | 丸亀市文化協会会長 |
| | 小佐古公士 | 丸亀市教育委員会教育長（館長 兼 副理事長） | 小田原保雄 | 丸亀市教育委員会委員長 |
| | 島川　修治 | 丸亀商工会議所副会頭 | 山地　洋子 | 学識経験者 |
| | 前田　寛 | 丸亀平井美術館副館長 | 小橋　清信 | 丸亀市教育委員会教育次長（副館長 兼 常務理事） |
| 監　事 | 山地　隆 | 丸亀市識見委員 | 田中　照明 | 丸亀市収入役 |
| 評議員 | 小河　稔 | 丸亀市社会教育委員委員長 | 川松　美智 | 学識経験者 |
| | 森安満里子 | 丸亀市婦人団体連絡協議会会長 | 川崎　展子 | 学識経験者 |
| | 野崎　等 | 丸亀市小学校研究会図工・美術造形部会代表 | 酒井　明世 | 学識経験者 |
| | 佐野　忠子 | 丸亀市幼稚園長会会長 | 多田羅　洋 | 丸亀市教育委員会文化課長 |
| | 曽我真佐子 | 丸亀市保育所長会会長 | 山崎　洋子 | 学識経験者 |
| | 香川　宏 | 学識経験者 | 亀井　敬子 | 学識経験者 |
| | 大西　康彦 | 学識経験者 | | |

〔2004年3月31日現在〕

**2004年度**（平成16年度）



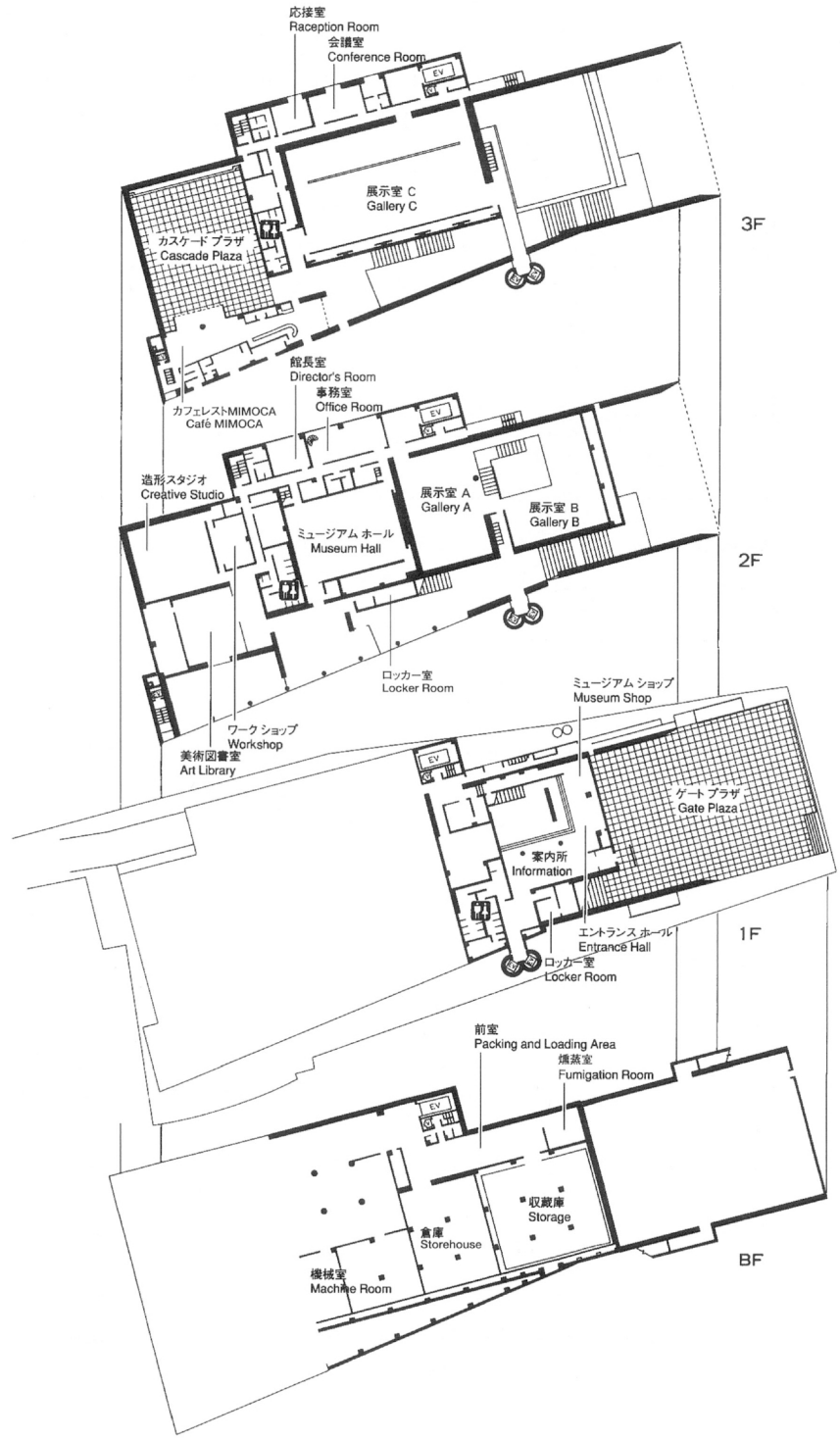

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 相談役 | 高階　秀爾 | 大原美術館館長 | | 荒井　茂雄 | 新制作協会会員 |
| 理　事 | 片山　圭之 | 丸亀市市長（理事長） | | 小田原保雄 | 丸亀市教育委員会委員長 |
| | 小佐古公士 | 丸亀市教育委員会教育長（館長） | | 山地　洋子 | 学識経験者 |
| | 島川　修治 | 丸亀商工会議所副会頭 | | 明石　　進 | 丸亀市教育委員会教育次長 |
| | 前田　　寛 | 丸亀平井美術館副館長 | | 白川　洋二 | （副館長 兼 常務理事） |
| | 河野　虎雄 | 学識経験者 | | | |
| 監　事 | 山地　　隆 | 丸亀市識見委員 | | 田中　照明 | 丸亀市収入役 |
| 評議員 | 直井　一之 | 丸亀市社会教育委員委員長 | | 川松　美智 | 学識経験者 |
| | 森安満里子 | 丸亀市婦人団体連絡協議会会長 | | 川崎　展子 | 学識経験者 |
| | 赤松よし子 | 丸亀市小学校研究会図工・美術造形部会代表 | | 酒井　明世 | 学識経験者 |
| | 佐野　忠子 | 丸亀市幼稚園長会会長 | | 多田羅　洋 | 丸亀市教育委員会文化課長 |
| | 曽我真佐子 | 丸亀市保育所長会会長 | | 山崎　洋子 | 学識経験者 |
| | 香川　　宏 | 学識経験者 | | 亀井　敬子 | 学識経験者 |
| | 大西　康彦 | 学識経験者 | | | |

〔2005年３月31日現在〕

# VIII 施設概要

所 在 地　丸亀市浜町80番地１
敷地面積　5,974.53㎡
規模構造　鉄骨鉄筋コンクリート構造
　　地下１階，地上３階
最高高さ　20m
建築面積　3,564.80㎡
延床面積　11,948.14㎡
仕上外壁　アルミ押出型材－Y（スパンドレル）
　　石（バーリントンスレート）
　　コンクリート打放し
仕上内装　床：大理石，花崗岩，フローリングタイル，ライムストーン，カーペットタイル，ゴムタイル，塩ビシート
　　壁：クロステックス（展示室）ナプコホワイト，ビニールクロス，布クロス
　　天井：岩綿吸音ボード AEP，ボード塗装，アルミパネル
設　　計　谷口建築設計研究所
監　　理　丸亀市建築課
　　谷口建築設計研究所
施　　工　建築工事　㈱鹿島建設
　　電気設備工事　㈱栗原工業
　　機械設備工事　㈱川崎設備工業
工　　期　平成元年11月21日着工
　　平成３年６月20日竣工

３階●展示室C　642.74㎡
Gallery C
カスケードプラザ　532.40㎡
Cascade Plaza
カフェレスト MIMOCA　236.67㎡
Café MIMOCA
会議室
Conference Room
２階●展示室 A　285.66㎡
Gallery A
展示室 B　286.96㎡
Gallery B
ミュージアムホール　297.05㎡
Museum Hall
170席（舞台照明・音響・映像設備完備）
造形スタジオ　202.15㎡
Creative Studio
ワークショップ　60.00㎡
Room for Workshop
美術図書室　195.20㎡
Art Library
ロッカー室
Locker Room
１階●案内所
Information
ミュージアムショップ
Museum Shop
ロッカー室
Locker Room
ＢＦ●収蔵庫　373.64㎡
Storage



# Ⅸ 利用案内

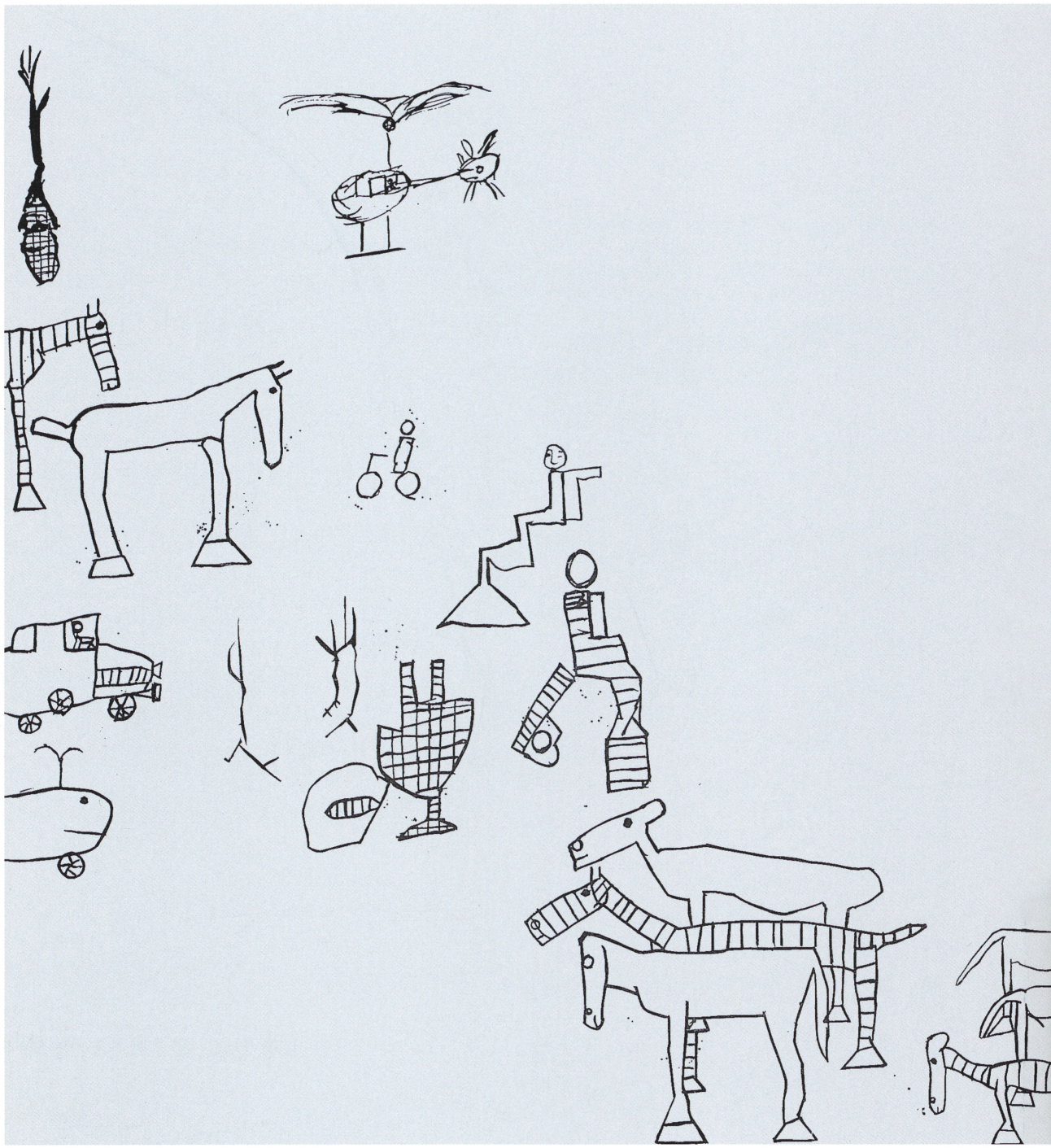
開館時間　午前10時～午後６時（入館は５時30分まで）
休 館 日　年末・12月25日～31日、他に展示替えのための臨時休館（会期中無休）
観 覧 料　常設展　一　般　　300円（団体240円）
　　大学生　　200円（団体160円）
　企画展　その都度料金設定
　無料　高校生以下
　　身体障害者手帳、療育手帳をお持ちの方（介護者を含む）
　　中讃広域行政圏に住所をお持ちの65歳以上の方
　　＊中讃広域行政圏－丸亀市・善通寺市・綾歌町・
　　飯山町・琴南町・満濃町・琴平町・多度津町・
　　仲南町の２市７町
　割引　20名以上の団体　２割引

交通案内　□新幹線を利用する場合
　東京～岡山　約３時間
　①特急を利用の場合
　　岡山～丸亀　　特急　約40分
　②マリンライナー（坂出乗換）を利用の場合
　　岡山～坂出　　マリンライナー　約40分
　　坂出～丸亀　　普通　約10分
　　ＪＲ丸亀駅から徒歩約１分
□飛行機を利用する場合
　東京～高松空港　　約１時間
　①空港からタクシーを利用の場合　　約40分
　②空港からバス、高松からＪＲ利用の場合　　バス　約40分
　　電車(特急) 約20分
□高速道路を利用する場合
　岡山～瀬戸中央自動車道　　坂出北ＩＣから丸亀市方面へ約20分
　松山から　松山・高松自動車道　善通寺ＩＣから丸亀市方面へ約15分
　高知から　高知・高松自動車道　善通寺ＩＣから丸亀市方面へ約15分
　徳島から　徳島自動車道　美馬ＩＣから丸亀市方面へ約40分

駐車場◆ＪＲ丸亀駅前地下駐車場を利用（１時間無料）

丸亀市猪熊弦一郎現代美術館年報　2003-2004

平成20年３月　　印刷
平成20年３月　　発行
平成24年３月　　再版
編集・発行　丸亀市猪熊弦一郎現代美術館、公益財団法人ミモカ美術振興財団
香川県丸亀市浜町80-1　TEL(0877)24-7755
印　　刷　平和写真印刷株式会社
香川県丸亀市土器町北1-18　TEL(0877)23-1300



Marugame Genichiro-Inokuma Museum Of Contemporary Art
Biennial Report 2003-2004